

# 日本版CCRC及び函館の 福祉コミュニティエリアに関する研究

－東京圏高齢者1万人調査から

大 橋 美 幸

## 1. はじめに

東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）は今後、急速に高齢化が進み、医療や介護サービスの受け皿が不足すると予測されており、首都圏を含む都市部の高齢者が地方へ移住することが考えられている。また、人口減少社会においてコンパクトシティがうたわれ、「まちなか居住」が進められており、集住化による多世代居住が考えられている<sup>1)</sup>。

この中で、アメリカの退職者コミュニティ（Continuing Care Retirement Community、以下CCRC）が参考にされ、日本版CCRCとして「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に盛り込まれた。法制化も検討されている。

函館では従来から公営住宅跡地を利用した福祉コミュニティエリア構想が進められており、日本版CCRCの機能を持たせるとしている<sup>2)</sup>。東京圏の中高齢者に対するネットアンケートを行い、函館におけるCCRCの方向性を提案する。

## 2. 日本版CCRCの概要

日本版CCRCは「生涯活躍のまち」構想として、東京圏をはじめとする地域の高齢者が希望に応じ地方や「まちなか」に移り住み、地域住民や多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくりが目指されている<sup>3)</sup>。

栃木県のゆいまーる那須（2010年入居開始、高齢者住居70戸、東京や関西等から入居、自立から要介護）、石川県のシェア金沢（2013年入居開始、高齢者住居32戸、近隣・東京や関西等から入居、自立から要介護）等がモデルとされている<sup>4)</sup>。

日本版CCRCは、サービス付き高齢者向け住宅等の住まいとともに、健康づくりや就労、生涯学習等のプログラムを準備し、最期まで医療や介護サービスを提供して暮らし続けることが考えられている。入居は原則65歳以上の健康な高齢者を対象とするが、40、50代や要介護状態にある高齢者も入居できる。高齢者夫婦で年金額が月額21.8万円程度の一般的な所得層を基本としつつ、多様なプラン設定が可能である<sup>3)</sup>。

自治体は地方版総合戦略に構想を盛り込んだ上で、基本計画を策定することになっている。民間企業、医療・社会福祉法人、大学、NPO法人等が参加した運営推進法人が選定され、事前相談とお試し居住等の移住支援を行い、必要に応じたプログラムやサービスを提供または調整することになる<sup>3)</sup>。

### 3. 函館福祉コミュニティエリア構想の概要

函館の福祉コミュニティエリアは市営住宅跡地 6 ha で、JR函館駅から約 6 km、周辺は閑静な住宅地である<sup>5, 6)</sup>。近隣にバス営業所があり、一日約250便の路線バスが運行されている。ドラッグストア、コンビニがあり、約 1 km 先にスーパーがある。保育園、小・中学校、並びにホームヘルプ、通所リハビリテーション、認知症グループホーム等がある。2016、17年度に、特別養護老人ホーム100床、地域密着型特別養護老人ホーム29床、認知症グループホーム 4 ユニット36床、有料老人ホーム（特定施設）2 施設58床が整備される<sup>6)</sup>。

2016年度に実施設計、建設工事が開始され、本格的な工事は2017年度からの見込みである<sup>6)</sup>。

## 4. 東京圏からの転居意識

### (1) 調査方法

2015年11月、50代以上の東京圏在住者にネットアンケート調査を行った。アンケート調査は2段階で実施した。

第1回調査として、東京圏在住者の日本版CCRCの認知、移住への関心を尋ねる調査を行った。計画回答者数は1万人である。

第2回調査は、第1回調査で高齢期の移住に関心があり、かつ日本版CCRCへの移住に関心のある人を対象に行った。計画回答者数は500人である。調査項目は、回答者基本属性（性別、年代、結婚歴・子どもの有無、年収）、日本版CCRCへの移住希望時期、日本版CCRCで最初を選択する住まいの種類、住まいや地域を選択する基準、日本版CCRCの情報収集先、日本版CCRCに希望するアクティビティプログラム及び相談窓口の種類、函館の福祉コミュニティエリアの選択、移住を考える上での不安な点等である。

### (2) 日本版CCRCの認知、移住への関心（第1回調査）

第1回調査の回答者数は1万人。

男性5350人(53.5%)、女性4650人(46.5%)。若干男性が多い。

年代は50代3900人(39.0%)、60代3300人(33.0%)、70歳以上2800人(28.0%)。50代が4割、60代、70歳以上がそれぞれ3割である。

年代別に性別を見ると、年配者で男性が多い【表1.1】。

表1.1 第1回調査 回答者基本属性（年代と性別）

		年 代			合 計
		50代	60代	70歳以上	
性 別	男 性	1700	1650	2000	5350
	女 性	2200	1650	800	4650
合 計		3900	3300	2800	10000

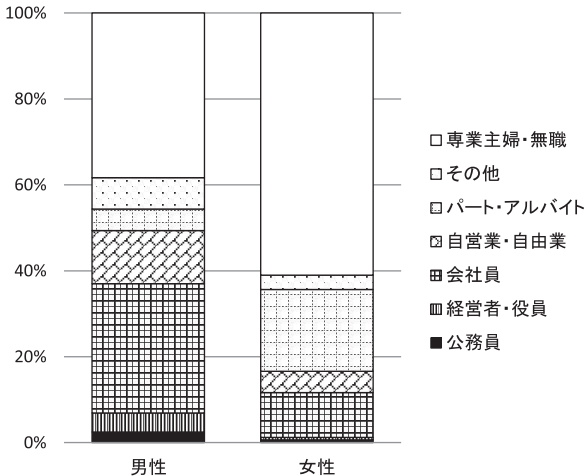
職業は公務員162人(1.6%)、経営者役員263人(2.6%)、会社員2098人(21.0%)、

自営業・自由業891人(8.9%)、パート・アルバイト1152人(11.5%)、その他546人(5.5%)、専業主婦・無職4888人(48.9%)。専業主婦・無職が半数、会社員が2割である。

男女別に見ると、男性の4割が専業主婦(夫)・無職であり、3割が会社員である。女性の6割が専業主婦・無職であり、2割がパート・アルバイトである【図表1.2】。

図表1.2 第1回調査 回答者基本属性 (男女別職業)

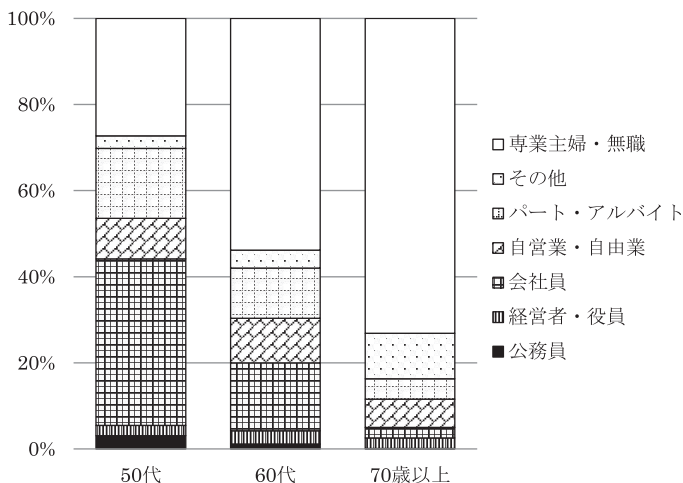
		性 別		合 計
		男 性	女 性	
職 業	公務員	133	29	162
	経営者・役員	236	27	263
	会社員	1611	487	2098
	自営業・自由業	662	229	891
	パート・アルバイト	267	885	1152
	その他	391	155	546
	専業主婦・無職	2050	2838	4888
合 計		5350	4650	10000



年代別に見ると、50代の4割が会社員であり、3割が専業主婦・無職である。60代の半数、70代の7割が専業主婦・無職である【図表1.3】。

図表1.3 第1回調査 回答者基本属性（年代別職業）

		年 代			合 計
		50代	60代	70歳以上	
職業	公務員	120	39	3	162
	経営者・役員	93	101	69	263
	会社員	1509	520	69	2098
	自営業・自由業	367	341	183	891
	パート・アルバイト	634	386	132	1152
	その他	113	137	296	546
	専業主婦・無職	1064	1776	2048	4888
合 計		3900	3300	2800	10000



結婚歴は未婚2094人(20.9%)、既婚7905人(79.1%)。8割が既婚である。

子どもなし2207人(22.1%)、子どもあり7793人(77.9%)。8割が子どもがいる。

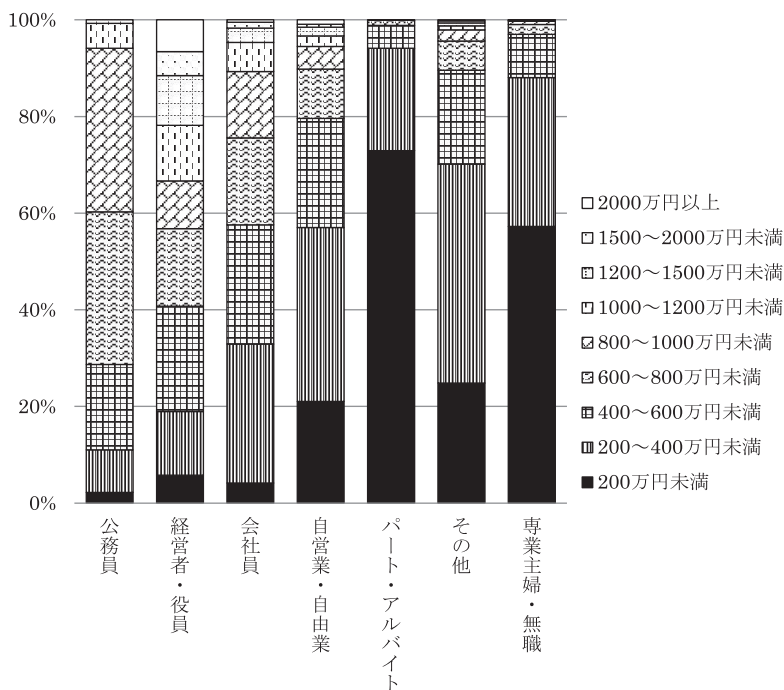
世帯年収は200万円未満566人(6.7%)、200～400万円未満2383人(28.2%)、400～600万円未満2056人(24.3%)、600～800万円未満1314人(15.5%)、800～1000万円未満936人(11.1%)、1000～1200万円未満525人(6.2%)、1200～1500万円未満373人(4.4%)、1500～2000万円未満195人(2.3%)、2000万円以上106人(1.3%)。200～400万円未満が3割、400～600万円未満が1／4である。

個人年収は200万円未満3536人(40.4%)、200～400万円未満2594人(29.6%)、400～600万円未満1234人(14.1%)、600～800万円未満626人(7.2%)、800～1000万円未満406人(4.6%)、1000～1200万円未満171人(2.0%)、1200～1500万円未満104人(1.2%)、1500～2000万円未満44人(0.5%)、2000万円以上35人(0.4%)。200万円未満が4割、200～400万円未満が3割である。

職業別に個人収入を見ると、会社員は200～400万円未満が3割、400～600万円未満が1／4、600～800万円が2割である。パート・アルバイトは200万円未満が7割、200～400万円未満が2割である。専業主婦・無職は200万円未満が6割、200～400万円未満が3割である【図表1.4】。

図表1.4 第1回調査 回答者基本属性（職業別個人年収）

		職 業							合計
		公務員	経営者・役員	会社員	自営業・自由業	パート・アルバイト	その他	専業主婦・無職	
個人収入	200万円未満	3	14	78	165	760	119	2397	3536
	200～400万円未満	12	32	540	282	221	217	1290	2594
	400～600万円未満	24	53	463	177	49	93	375	1234
	600～800万円未満	43	39	338	80	11	29	86	626
	800～1000万円未満	46	24	258	37	0	11	30	406
	1000～1200万円未満	7	28	113	17	0	4	2	171
	1200～1500万円未満	1	25	56	14	1	3	4	104
	1500～2000万円未満	0	12	23	5	0	2	2	44
	2000万円以上	0	16	9	7	0	1	2	35
合 計		136	243	1878	784	1042	479	4188	8750



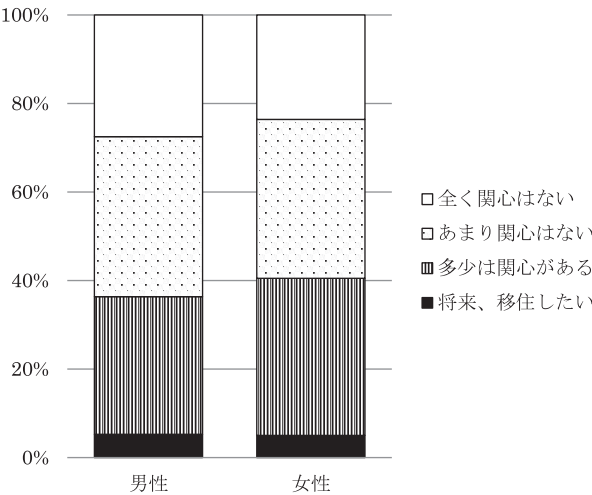
居住地は東京都3838人(38.4%)、神奈川県2717人(27.2%)、埼玉県1713人(17.1%)、千葉県1732人(17.3%)。東京都が最も多く4割を占める。

高齢期の移住に関心があるか、遠方のサービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム等に移り住むことを含めて尋ねると、「将来、移住したい」515人(5.1%)、「多少は関心がある」3315人(33.2%)、「あまり関心はない」3602人(36.0%)、「全く関心がない」2568人(25.7%)。「将来、移住したい」は5 %であるが、「多少は関心がある」が3割である。

男女別、年代別で差は見られない【図表1.5、1.6】。

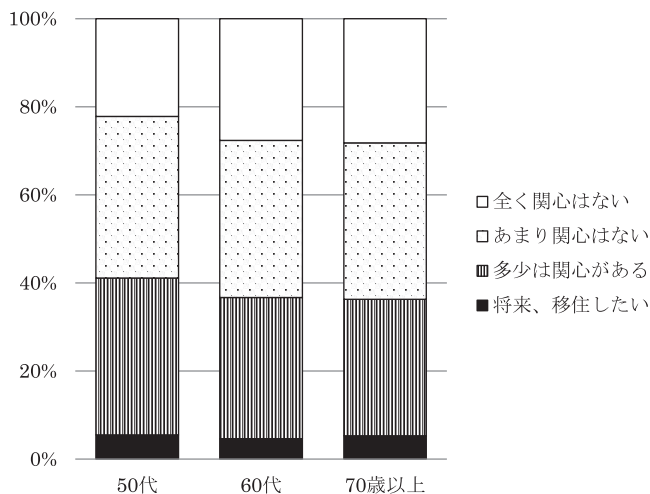
図表1.5 第1回調査 高齢期移住への関心（男女別）

		性 別		合 計
		男 性	女 性	
高 齢 期 移 住 へ の 関 心	将来、移住したい	281	234	515
	多少は関心がある	1665	1650	3315
	あまり関心はない	1934	1668	3602
	全く関心はない	1470	1098	2568
合 計		5350	4650	10000



図表1.6 第1回調査 高齢期移住への関心（年代別）

		年 代			合計
		50代	60代	70歳以上	
高齢期移住 への 関 心	将来、移住したい	214	153	148	515
	多少は関心がある	1389	1058	868	3315
	あまり関心はない	1431	1177	994	3602
	全く関心はない	866	912	790	2568
合 計		3900	3300	2800	10000



結婚歴、子どもの有無、世帯年収、居住地による差は見られない。

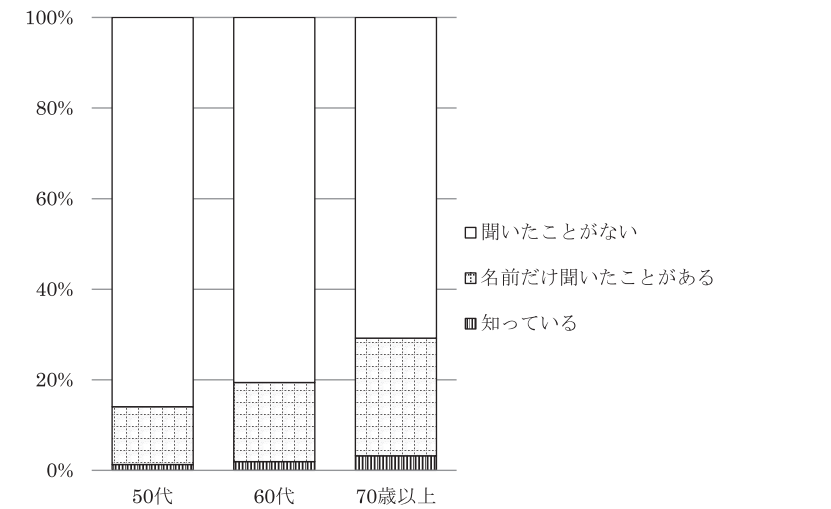
日本版CCRCの認知度は、「知っている」203人(2.0%)、「名前だけ聞いたことがある」1801人(18.0%)、「聞いたことがない」7996人(80.0%)。「聞いたことがない」が8割であり、あまり知られていない。

男女別に差は見られない。

年代別に見ると、年代が上がるほど聞いたことがある人がやや多くなる【図表1.7】。

図表1.7 第1回調査 日本版CCRCの認知度（年代別）

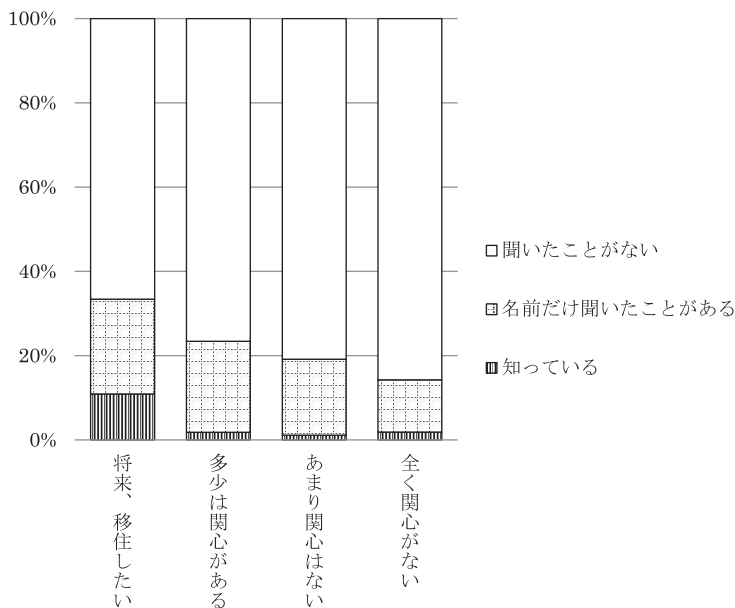
		年 代			合 計
		50代	60代	70歳以上	
日 本 版 CCRCの 認 知 度	知っている	49	64	90	203
	名前だけ聞いたことがある	498	576	727	1801
	聞いたことがない	3353	2660	1983	7996
合 計		3900	3300	2800	10000



居住地による差は見られない。  
高齢期の移住への関心別に見ると、関心がある人で聞いたことがある人が多くなる【図表1.8】。

図表1.8 第1回調査 日本版CCRCの認知度（高齢期移住への関心別）

		高齢期移住への関心				合 計
		将来、移住したい	多少は関心がある	あまり関心はない	全く関心がない	
日本版 CCRCの 認知度	知っている	56	59	40	48	203
	名前だけ聞いたことがある	116	717	650	318	1801
	聞いたことがない	343	2539	2912	2202	7996
合 計		515	3315	3602	2568	10000



日本版CCRCを「東京圏の高齢者等が地方に移り住んで、必要な医療や介護サービスを利用しながら最期まで暮らし続けるところです。一般的な所得の高齢者の利用が考えられています。健康時から移り住んで、仕事や社会活動、生涯学習等に参加し、地域にとけ込んで多世代と交流していくことが考えられています」と説明した上で、日本版CCRCに移り住むことに関心があるか尋ねると、「大いに関心がある」413人(4.1%)、「多少は関心がある」3135人

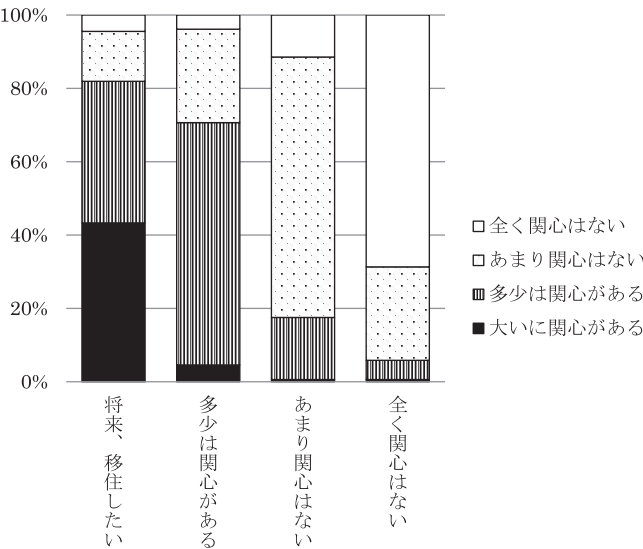
(31.4%)、「あまり関心がない」4126人(41.3%)、「全く関心がない」2326人(23.3%)。「大いに関心がある」と「多少は関心がある」を合わせると35%である。

性別、年代、結婚歴、子どもの有無、世帯年収、居住地による差は見られない。

高齢期の移住への関心別に見ると、高齢期の移住に関心がある人で、日本版CCRCへの移住に関心が見られる【図表1.9】。

図表1.9 第1回調査 日本版CCRCへの移住（高齢期移住への関心）

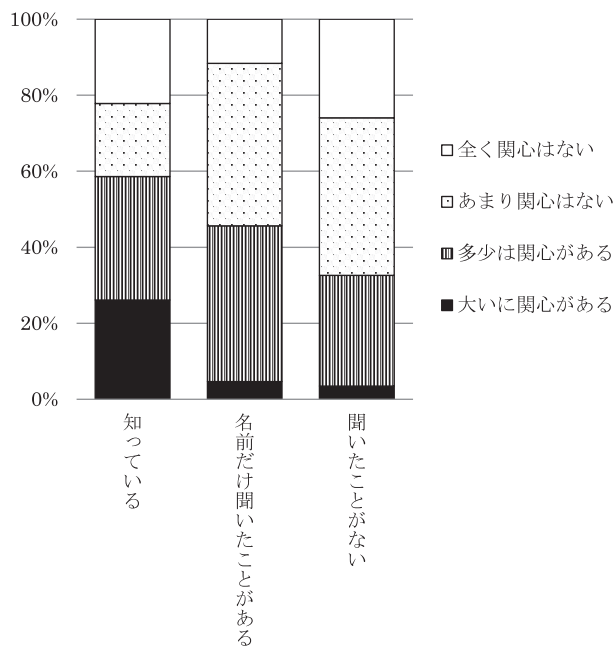
		高齢期移住への関心				合 計
		将来、移住したい	多少は関心がある	あまり関心はない	全く関心がない	
日 本 版 CCRCへ の 移 住	大いに関心がある	223	152	22	16	413
	多少は関心がある	199	2191	611	134	3135
	あまり関心はない	70	844	2557	655	4126
	全く関心はない	23	128	412	1763	2326
合 計		515	3315	3602	2568	10000



日本版CCRCの認知度では「聞いたことがない」人でも、日本版CCRCへの移住に関心がある人たちがおり、広報の必要性が感じられる【図表1.10】。

図表1.10 第1回調査 日本版CCRCへの移住（日本版CCRCの認知度別）

		日本版CCRCの認知度			合 計
		知っている	名前だけ聞いたことがある	聞いたことがない	
日 本 版 CCRCへ の 移 住	大いに関心がある	53	84	276	413
	多少は関心がある	66	738	2331	3135
	あまり関心はない	39	770	3317	4126
	全く関心はない	45	209	2072	2326
合 計		203	1801	7996	10000



(3) 日本版CCRCへの移住時期、住まいを選択する基準（第2回調査）

第2回調査の回答者数は518人。

男性259人(50.0%)、女性259人(50.0%)。半数ずつである。

年代は50代156人(30.1%)、60代156人(30.1%)、70歳以上206人(39.8%)。70歳以上が4割、50代と60代が3割ずつである【表2.1】。

表2.1 第2回調査 回答者基本属性（性別と年代）

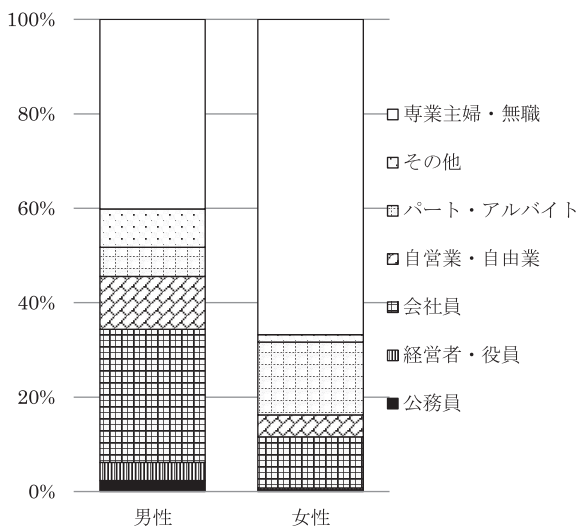
		年 代			合 計
		50代	60代	70歳以上	
性 別	男 性	78	78	103	259
	女 性	78	78	103	259
合 計		156	156	206	518

職業は公務員7人(1.4%)、経営者・役員11人(2.1%)、会社員101人(19.5%)、自営業・自由業41人(4.9%)、パート・アルバイト56人(10.8%)、その他25人(4.8%)、専業主婦・無職277人(53.5%)。専業主婦・無職が半数であり、会社員が2割である。

男女別に見ると、男性は4割が専業主婦(夫)・無職であり、3割が会社員。女性は2／3が専業主婦・無職であり、15%がパート・アルバイト、1割が会社員である【図表2.2】。

図表2.2 第2回調査 回答者基本属性（男女別職業）

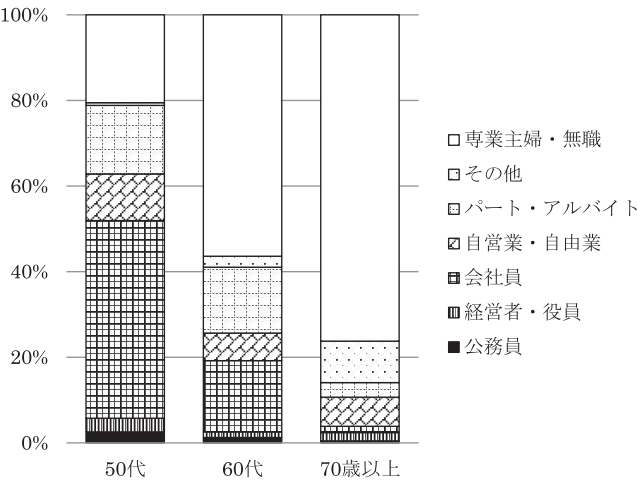
		性 別		合 計
		男 性	女 性	
職 業	公務員	6	1	7
	経営者・役員	10	1	11
	会社員	73	28	101
	自営業・自由業	29	12	41
	パート・アルバイト	16	40	56
	その他	21	4	25
	専業主婦・無職	104	173	277
合 計		259	259	518



年代別に見ると、50代は会社員が半数近い。60代の半数以上、70歳以上の3／4が専業主婦・無職である【図表2.3】。

図表2.3 第2回調査 回答者基本属性（年代別職業）

		年 代			合 計
		50代	60代	70歳以上	
職 業	公務員	4	2	1	7
	経営者・役員	5	2	4	11
	会社員	72	26	3	101
	自営業・自由業	17	10	14	41
	パート・アルバイト	25	24	7	56
	その他	1	4	20	25
	専業主婦・無職	32	88	157	277
合 計		156	156	206	518



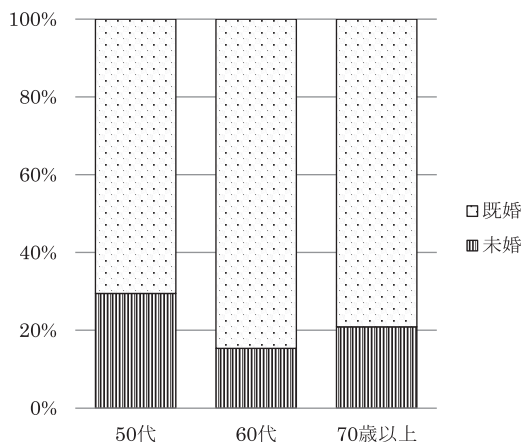
結婚歴は未婚113人(21.8%)、既婚405人(78.2%)。8割が既婚である。

男女別に見ると、既婚の人は男性259人中217人(83.8%)、女性259人中188人(72.6%)で男性の方がやや多い。

年代別に見ると、50代で未婚が若干多い【図表2.4】。

図表2.4 第2回調査 結婚歴（年代別）

		年 代			合 計
		50代	60代	70歳以上	
結 婚 歴	未 婚	46	24	43	113
	既 婚	110	132	163	405
合 計		156	156	206	518

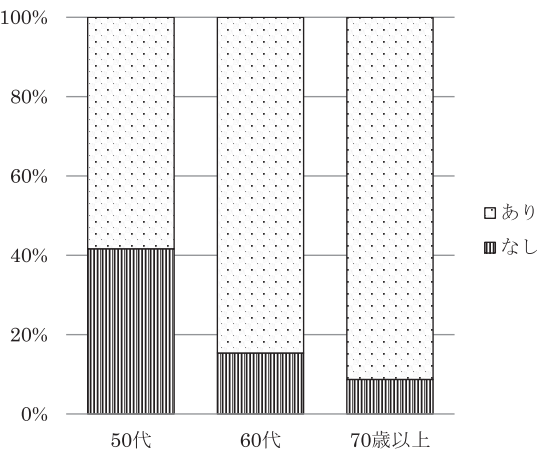


子どもなし107人(20.7%)、子どもあり411人(79.3%)。8割に子どもがいる。男女別に見ると、子どもがある人は男性259人中205人(79.2%)、女性259人中206人(79.5%)で差は見られない。

年代別に見ると、50代で子どもなしが多い【図表2.5】。

図表2.5 第2回調査 子どもの有無（年代別）

		年 代			合 計
		50代	60代	70歳以上	
子 ども の 有 無	な し	65	24	18	107
	あ り	91	132	188	411
合 計		156	156	206	518



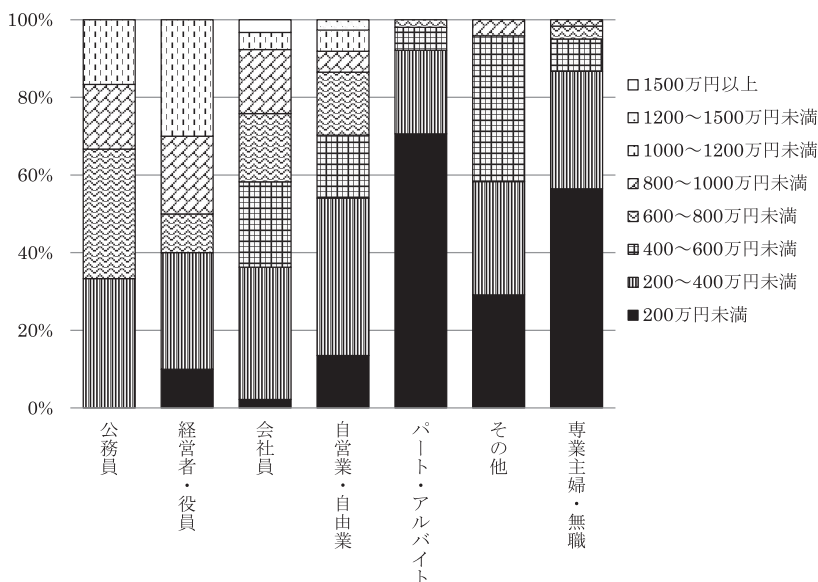
世帯年収は200万円未満35人(7.7%)、200～400万円未満132人(29.0%)、400～600万円未満110人(24.2%)、600～800万円未満68人(14.9%)、800～1000万円未満45人(9.9%)、1000～1200万円未満25人(5.5%)、1200～1500万円未満20人(4.4%)、1500～2000万円未満19人(4.2%)、2000万円以上1人(0.2%)。200～400万円未満が3割、400～600万円未満が1／4である。

個人年収は200万円未満187人(40.7%)、200～400万円未満142人(30.9%)、400～600万円未満58人(12.6%)、600～800万円未満34人(7.4%)、800～1000万円未満25人(5.4%)、1000～1200万円未満10人(2.2%)、1200～1500万円未満1人(0.2%)、1500～2000万円未満3人(0.7%)、2000万円以上0人(0.0%)。200万円未満が4割、200～400万円未満が3割である。

職業別に見ると、会社員は200～400万円未満が3割、400～600万円未満が2割である。専業主婦・無職は200万円未満が半数を超えており、200～400万円未満が3割である【図表2.6】。

図表2.6 第2回調査 回答者基本属性（職業別個人年収）

		職 業							合計
		公務員	経営者・役員	会社員	自営業・自由業	パート・アルバイト	その他	専業主婦・無職	
個人収入	200万円未満	0	1	2	5	36	7	136	187
	200～400万円未満	2	3	31	15	11	7	73	142
	400～600万円未満	0	0	20	6	3	9	20	58
	600～800万円未満	2	1	16	6	1	0	8	34
	800～1000万円未満	1	2	15	2	0	1	4	25
	1000～1200万円未満	1	3	4	2	0	0	0	10
	1200～1500万円未満	0	0	0	1	0	0	0	1
	1500万円以上	0	0	3	0	0	0	0	3
合 計		6	10	91	37	51	24	241	460



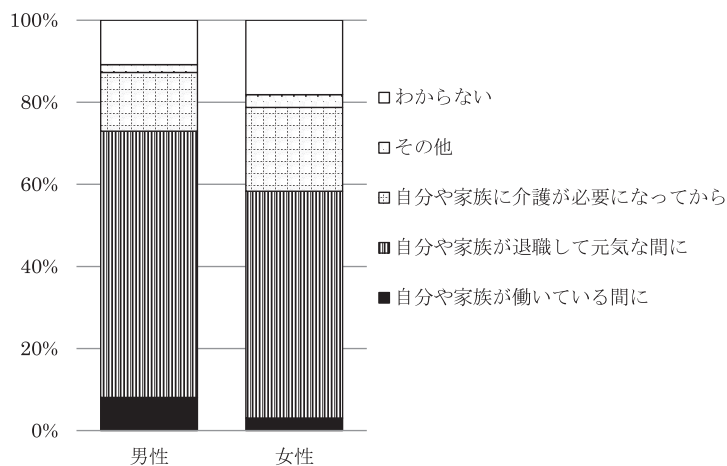
居住地は東京都215人 (41.5%)、神奈川県138人 (26.6%)、埼玉県73人 (14.1%)、千葉県92人 (17.8%)。東京都が最も多く4割である。

日本版CCRCに移住するとすればどんな時に考えているか尋ねると、「自分や家族が働いている間に (移住先で職をもつ予定)」29人 (5.6%)、「自分や家族が退職して元気な間に」311人 (60.0%)、「自分や家族に介護が必要になってから (現在、介護が必要な場合を含む)」90人 (17.4%)、「その他」13人 (2.5%)、「わからない」75人 (14.5%)。6割が退職後の元気な間を考えているが、介護が必要になってからも2割近い。その他には、子どもが独立したら、自宅が老朽化したら、介護が終了したら、納得できる日本版CCRCが見つければ等があった。

男女別に見ると、女性で「介護が必要になってから」が若干多い【図表2.7】。

図表2.7 第2回調査 日本版CCRCへの移住時期（男女別）

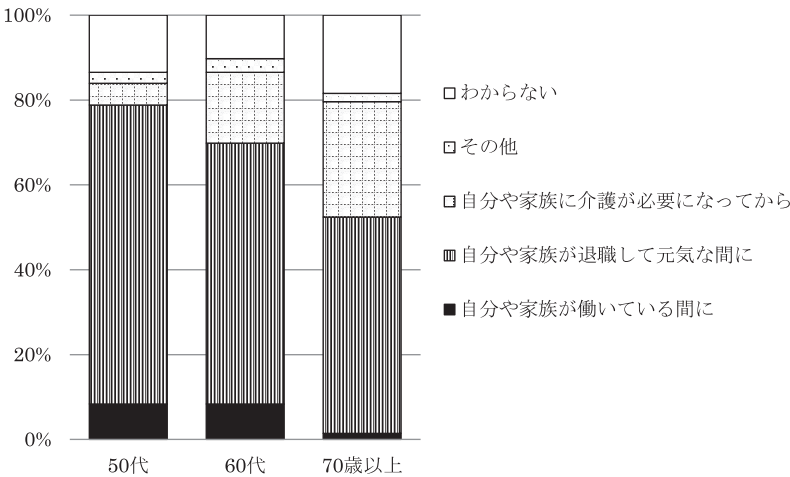
		性 別		合 計
		男 性	女 性	
日 本 版 CCRCへの 移 住 時 期	自分や家族が働いている間に	21	8	29
	自分や家族が退職して元気な間に	168	143	311
	自分や家族に介護が必要になってから	37	53	90
	その他	5	8	13
	わからない	28	47	75
合 計		259	259	518



年代別に見ると、年代が上がるほど「介護が必要になってから」が多くなる【図表2.8】。

図表2.8 第2回調査 日本版CCRCへの移住時期（年代別）

		年 代			合計
		50代	60代	70歳以上	
日 本 版 CCRCへの 移 住 時 期	自分や家族が働いている間に	13	13	3	29
	自分や家族が退職して元気な間に	110	96	105	311
	自分や家族に介護が必要になってから	8	26	56	90
	その他	4	5	4	13
	わからない	21	16	38	75
合 計		156	156	206	518



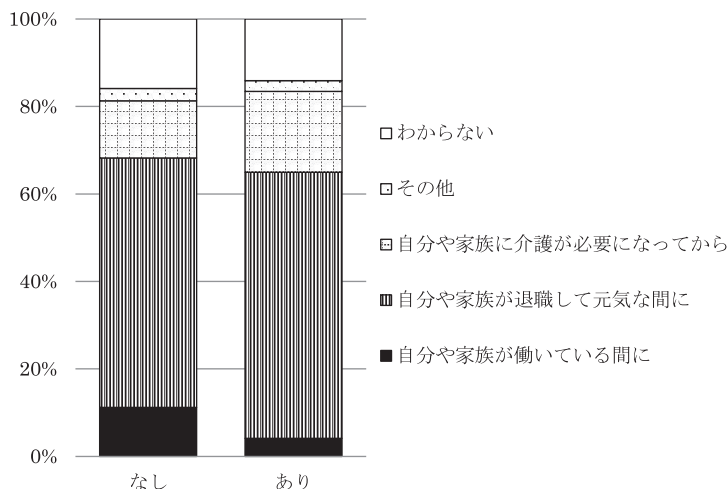
職業別に見ると、専業主婦・無職で「介護が必要になってから」がやや多いがこれは60代、70歳以上が多いためである。

結婚歴で見ると、未婚で「わからない」がやや多い。

子どもの有無で見ると、子どもなしの人で「自分や家族が働いている間に」が若干多い【図表2.9】。

図表2.9 第2回調査 日本版CCRCへの移住時期（子どもの有無別）

		子どもの有無		合 計
		なし	あり	
日 本 版 CCRCへの 移 住 時 期	自分や家族が働いている間に	12	17	29
	自分や家族が退職して元気な間に	61	250	311
	自分や家族に介護が必要になってから	14	76	90
	その他	3	10	13
	わからない	17	58	75
合 計		107	411	518



世帯年収別に見ると、200～400万円未満の人で「わからない」がやや多い。

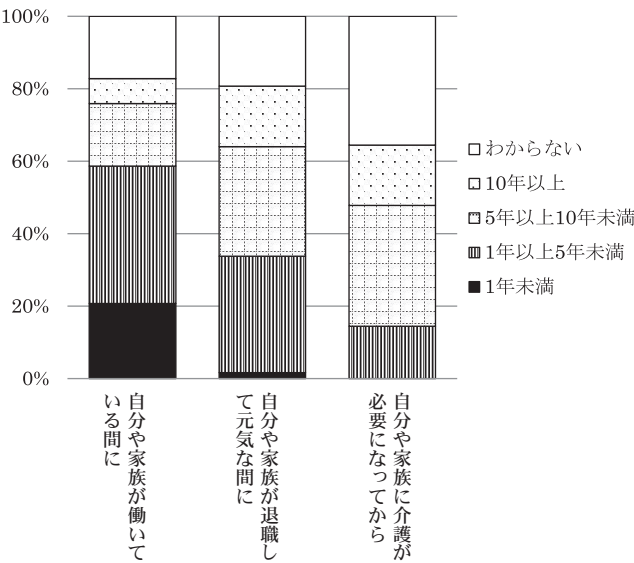
日本版CCRCに移住するとすれば何年先が尋ねたところ、「1年未満」11人(2.1%)、「1年以上5年未満」134人(25.9%)、「5年以上10年未満」143人(27.6%)、「10年以上」83人(16.0%)、「わからない」147人(28.4%)。「わから

ない」、「5年以上10年未満」、「1年以上5年未満」がそれぞれ3割近い。

移住時期別に見ると、「自分や家族が働いている間に」移住を考えている人は5年以内が6割、「自分や家族が退職して元気な間に」移住を考えている人は5年以内が4割近い。「自分や家族に介護が必要になってから」移住を考えている人はわからないが多く、5年以内は10数%である【図表2.10】。

図表2.10 第2回調査 日本版CCRCへの移住予定（移住時期別）

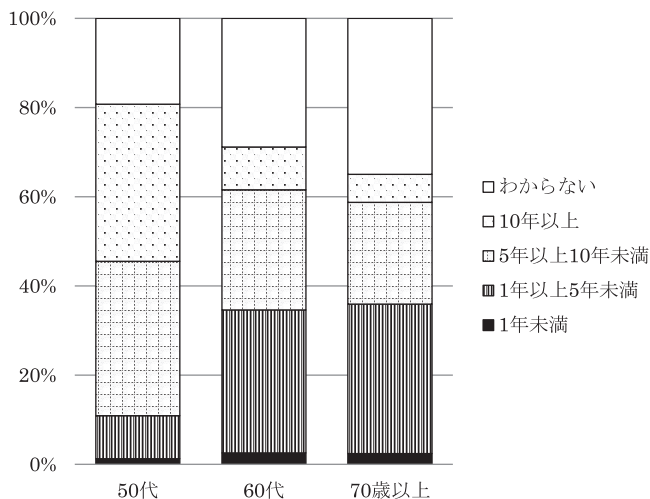
		日本版CCRCへの移住時期					合 計
		自分や家族が働いている間に	自分や家族が退職して元気な間に	自分や家族に介護が必要になってから	その他	わからない	
移住する とすれば 何年先か	1年未満	6	5	0	0	0	11
	1年以上5年未満	11	100	13	1	9	134
	5年以上10年未満	5	94	30	3	11	143
	10年以上	2	52	15	3	11	83
	わからない	5	60	32	6	44	147
合 計		29	311	90	13	75	518



年代別に見ると、50代は5年以内が1割であり、10年以上が35%である。60代、70歳以上ともに5年以内が35%程度であり、わからないが3割である【図表2.11】。

図表2.11 第2回調査 日本版CCRCへの移住予定（年代別）

		年 代			合計
		50代	60代	70歳以上	
移住すると すれば何年 先か	1年未満	2	4	5	11
	1年以上5年未満	15	50	69	134
	5年以上10年未満	54	42	47	143
	10年以上	55	15	13	83
	わからない	30	45	72	147
合 計		156	156	206	518



職業別に見ると、会社員で移住時期が遅い人が多くなるが、これは50代で会社員が多いためである。

結婚歴による差は見られない。

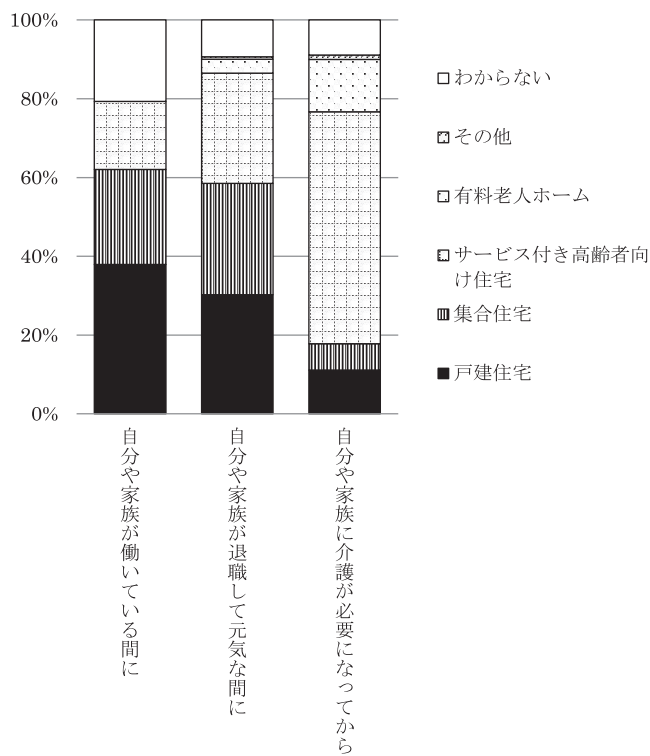
子どもの有無別に見ると、子どもなしの人で移住時期が遅い人が多いが、これは50代に子どもなしの人がやや多いためである。

日本版CCRCに移り住むとすれば、最初に選択する住まいは、「戸建住宅」131人(25.3%)、「集合住宅」119人(23.0%)、「サービス付き高齢者向け住宅」177人(34.2%)、「有料老人ホーム」27人(5.2%)、「その他」6人(1.2%)、「わからない」58人(11.2%)。「サービス付き高齢者向け住宅」が1／3であり、戸建住宅、集合住宅の順である。その他にはシェアハウス等があった。

移住時期別に見ると、「自分や家族が働いている間に」、「自分や家族が退職して元気な間に」移住を考えている人は戸建住宅が多く、「自分や家族に介護が必要になってから」移住を考えている人はサービス付き高齢者向け住宅が多い【図表2.12】。

図表2.12 第2回調査 日本版CCRCで最初に選択する住まい(日本版CCRCへの移住時期別)

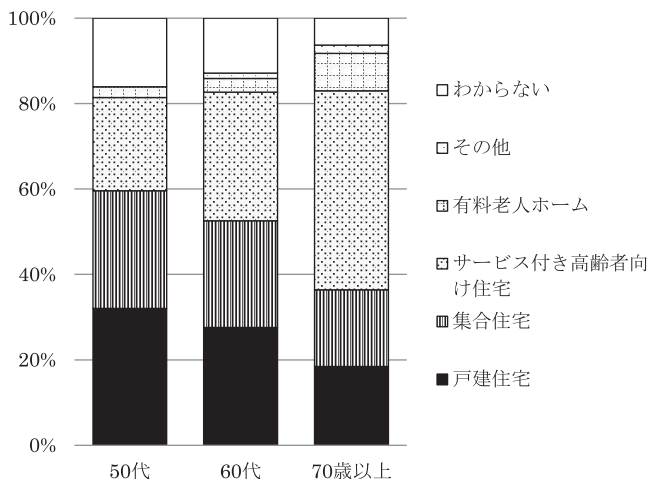
		日本版CCRCへの移住時期					合 計
		自分や家族が働いている間に	自分や家族が退職して元気な間に	自分や家族に介護が必要になってから	その他	わからない	
日 本 版 CCRCで 最初に選択 する住まい	戸建住宅	11	94	10	2	14	131
	集合住宅	7	88	6	2	16	119
	サービス付き 高齢者向け住宅	5	87	53	4	28	177
	有料老人ホーム	0	11	12	0	4	27
	その他	0	2	1	3	0	6
	わからない	6	29	8	2	13	58
合 計		29	311	90	13	75	518



年代別に見ると、50代で戸建住宅が多く、60代と70歳以上でサービス付き高齢者向け住宅が多い【図表2.13】。これは60代と70歳以上で「自分や家族に介護が必要になってから」移住を考えている人が多いためである。

図表2.13 第2回調査 日本版CCRCで最初に選択する住まい（年代別）

		年 代			合計
		50代	60代	70歳以上	
日本版CCRC で最初に選択 する住まい	戸建住宅	50	43	38	131
	集合住宅	43	39	37	119
	サービス付き 高齢者向け住宅	34	47	96	177
	有料老人ホーム	4	5	18	27
	その他	0	2	4	6
	わからない	25	20	13	58
合 計		156	156	206	518

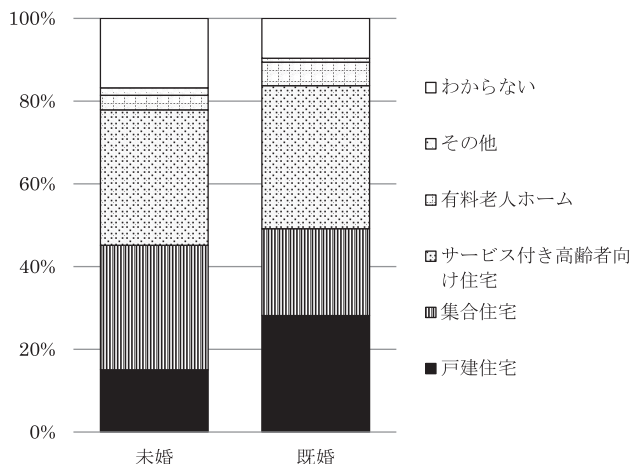


男女別に見ると、男性で戸建住宅、女性でサービス付き高齢者向け住宅が多い。これも同様に女性で「自分や家族に介護が必要になってから」移住を考えている人が多いためである。

結婚歴で見ると、未婚・既婚ともにサービス付き高齢者向け住宅が一番多く、未婚は集合住宅、既婚は戸建住宅が続く【図表2.14】。家族人数による差であると考えられる。子どもの有無による差は見られない。

図表2.14 日本版CCRCで最初に選択する住まい（結婚歴別）

		結婚歴		合計
		未婚	既婚	
日本版CCRC で最初に選択 する住まい	戸建住宅	17	114	131
	集合住宅	34	85	119
	サービス付き高齢者向け住宅	37	140	177
	有料老人ホーム	4	23	27
	その他	2	4	6
	わからない	19	39	58
合　　計		113	405	518



世帯年収別による差は見られない。

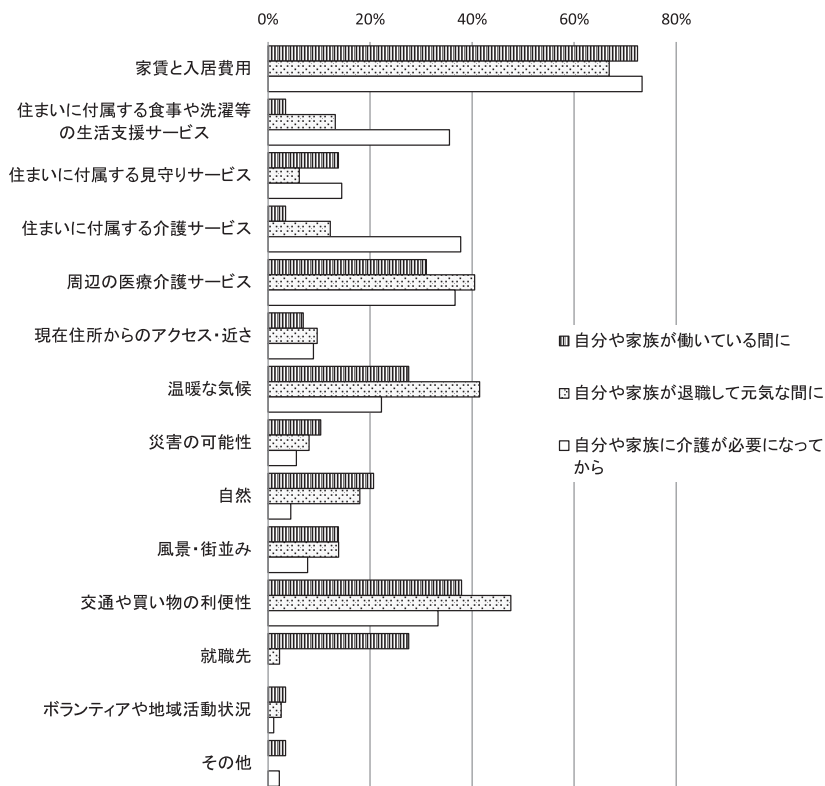
個人年収別に見ると、年収が少ないほどサービス付高齢者向け住宅が多く、多いほど戸建住宅が多い。これは50代で会社員が多く、60代や70歳以上で多い専業主婦・無職よりも個人年収が高いためである。

日本版CCRCに移り住む際の住まいや地域を選択する基準は、518人の一人3つまでの複数回答で「家賃と入居費用」357人(68.9%)、「住まいに付属する食事や洗濯等の生活支援サービス」97人(18.7%)、「住まいに付属する見守りサービス」45人(8.7%)、「住まいに付属する介護サービス」86人(16.6%)、「周辺の医療介護サービス」208人(40.2%)、「現在住所からのアクセス・近さ」46人(8.9%)、「温暖な気候」177人(34.2%)、「災害の可能性」41人(7.9%)、「自然」75人(14.5%)、「風景・街並み」59人(11.4%)、「交通や買い物の利便性」226人(43.6%)、「就職先」15人(2.9%)、「ボランティアや地域活動状況」15人(2.9%)、「その他」3人(0.6%)、「わからない」8人(1.5%)。「家賃と入居費用」が7割、「交通や買い物の利便性」と「周辺の医療介護サービス」が4割であった。「その他」はUターンがあった。

移住時期別に見ると、いずれも家賃と入居費用が多いが、「自分や家族に介護が必要になってから」移住を考えている人は「住まいに付属する食事や洗濯等の生活支援サービス」、「住まいに付属する介護サービス」が多くなっている。他方で「自分や家族が働いている間に」移住を考えている人で「就職先」が見られる【図表2.15】。

図表2.15 第2回調査 日本版CCRCの選択基準（移住時期別）

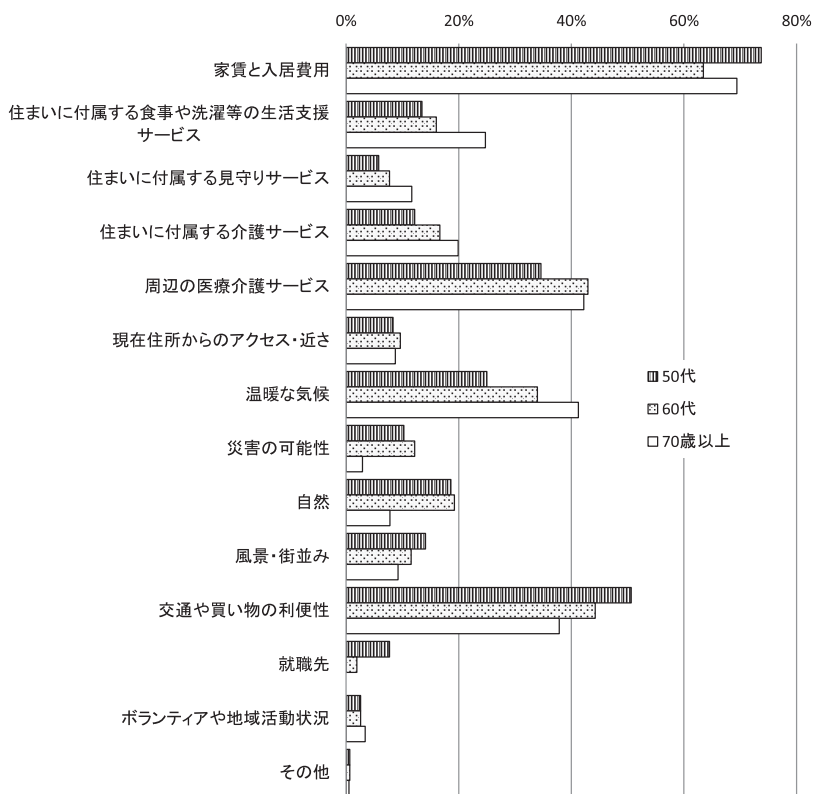
		日本版CCRCへの移住時期					合 計
		自分や家族が働いている間に n=29	自分や家族が退職して元氣な間に n=311	自分や家族に介護が必要になってから n=90	その他 n=13	わからない n=75	
日 本 版 CCRCを 選択する 条 件	家賃と入居費用	21	208	66	13	49	357
	住まいに付属する食事や洗濯等の生活支援サービス	1	41	32	2	21	97
	住まいに付属する見守りサービス	4	19	13	0	9	45
	住まいに付属する介護サービス	1	38	34	1	12	86
	周辺の医療介護サービス	9	126	33	7	33	208
	現在住所からのアクセス・近さ	2	30	8	0	6	46
	温暖な気候	8	129	20	2	18	177
	災害の可能性	3	25	5	0	8	41
	自然	6	56	4	3	6	75
	風景・街並み	4	43	7	0	5	59
	交通や買い物の利便性	11	148	30	9	28	226
	就職先	8	7	0	0	0	15
	ボランティアや地域活動状況	1	8	1	2	3	15
	その他	1	0	2	0	0	3



年代別に見ると、いずれも家賃と入居費用が多いが、次いで50代を中心に「交通や買い物の利便性」が多く、60代や70歳以上で「温暖な気候」が多くなっている【図表2.16】。

図表2.16 第2回調査 日本版CCRCの選択基準（年代別）

		年 代			合 計
		50代 n=156	60代 n=156	70歳以上 n=206	
日 本 版 CCRCを 選択する 条 件	家賃と入居費用	115	99	143	357
	住まいに付属する食事や洗濯等の生活支援サービス	21	25	51	97
	住まいに付属する見守りサービス	9	12	24	45
	住まいに付属する介護サービス	19	26	41	86
	周辺の医療介護サービス	54	67	87	208
	現在住所からのアクセス・近さ	13	15	18	46
	温暖な気候	39	53	85	177
	災害の可能性	16	19	6	41
	自然	29	30	16	75
	風景・街並み	22	18	19	59
	交通や買い物の利便性	79	69	78	226
	就職先	12	3	0	15
	ボランティアや地域活動状況	4	4	7	15
	その他	1	1	1	3



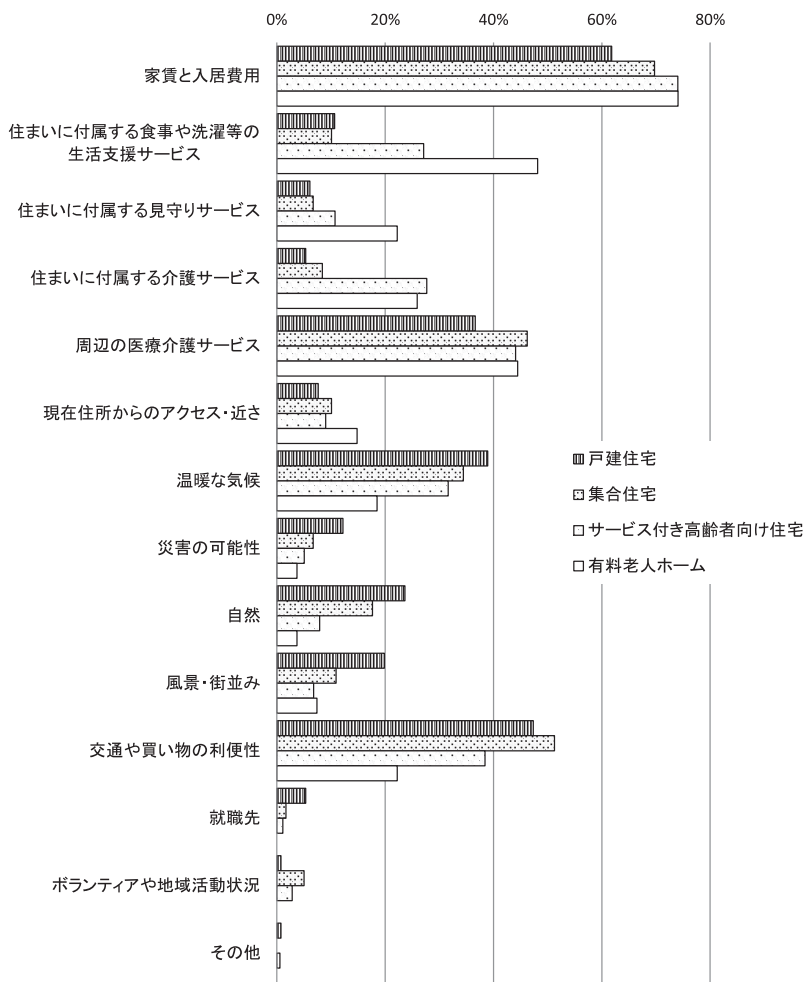
男女別に見ると、女性で「交通や買い物の利便性」が多くなっている。結婚歴、子どもの有無による差は見られない。

世帯年収、個人年収による差は見られない。

日本版CCRCで最初に選択する住まい別に見ると、いずれも家賃と入居費用が多いが、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホームで「住まいに付属する食事や洗濯等の生活支援サービス」、「住まいに付属する介護サービス」が比較的多くなっている。他方で、戸建住宅や集合住宅で「温暖な気候」、「交通や買い物の利便性」が多くなっている【図表2.17】。

図表2.17 第2回調査 日本版CCRCの選択基準（最初に選択する住まい別）

		日本版CCRCで最初に選択する住まい						合計
		戸建住宅 n=131	集合住宅 n=119	サービス付き 高齢者向け住宅 n=177	有料老人 ホーム n=27	その他 n=6	わからない n=58	
日本版 CCRCを 選択する 条件	家賃と入居費用	81	83	131	20	4	38	357
	住まいに付属する 食事や洗濯等の生活 支援サービス	14	12	48	13	1	9	97
	住まいに付属する 見守りサービス	8	8	19	6	0	4	45
	住まいに付属する 介護サービス	7	10	49	7	1	12	86
	周辺の医療介護 サービス	48	55	78	12	1	14	208
	現在住所からの アクセス・近さ	10	12	16	4	1	3	46
	温暖な気候	51	41	56	5	5	19	177
	災害の可能性	16	8	9	1	0	7	41
	自然	31	21	14	1	1	7	75
	風景・街並み	26	13	12	2	0	6	59
	交通や買い物の 利便性	62	61	68	6	3	26	226
	就職先	7	2	2	0	0	4	15
	ボランティアや 地域活動状況	1	6	5	0	1	2	15
	その他	1	0	1	0	0	1	3



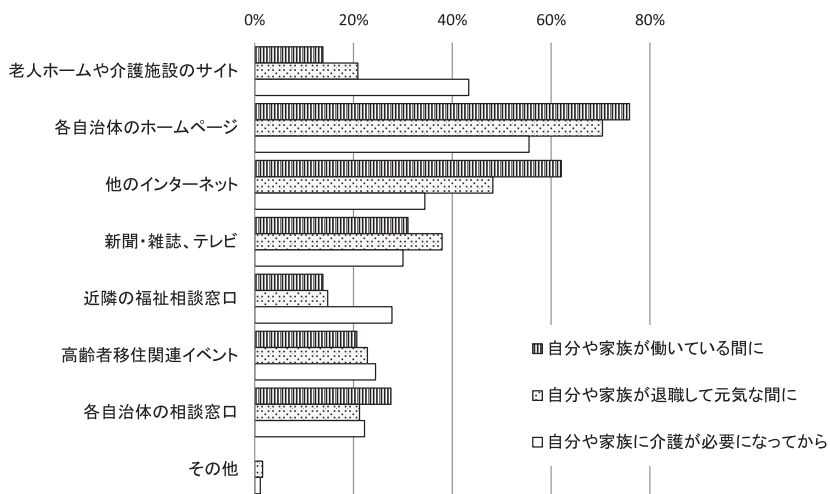
## (4) 日本版CCRCの情報収集先（第2回調査）

日本版CCRCの情報収集先は、518人の複数回答で「老人ホームや介護施設のサイト」136人(26.3%)、「各自治体のホームページ」348人(67.2%)、「他のインターネット」229人(44.2%)、「新聞・雑誌、テレビ」182人(35.1%)、「近隣の福祉相談窓口」90人(17.4%)、「高齢者移住関連イベント」124人(23.9%)、「各自治体の相談窓口」118人(22.8%)、「その他」7人(1.4%)、「わからない」38人(7.3%)。「各自治体のホームページ」が7割、「他のインターネット」が4割である。「その他」は旅行や口コミがあった。

移住時期別に見ると、「自分や家族が働いている間に」、「自分や家族が退職して元気な間に」移住を考えている人で、各自治体のホームページ、他のインターネットが多く、「自分や家族に介護が必要になってから」移住を考えている人で、各自治体のホームページに加えて、老人ホームや介護施設のサイト、近隣の福祉相談窓口が比較的多くなっていた【図表2.18】。

図表2.18 第2回調査 日本版CCRCの情報収集先（移住時期別）

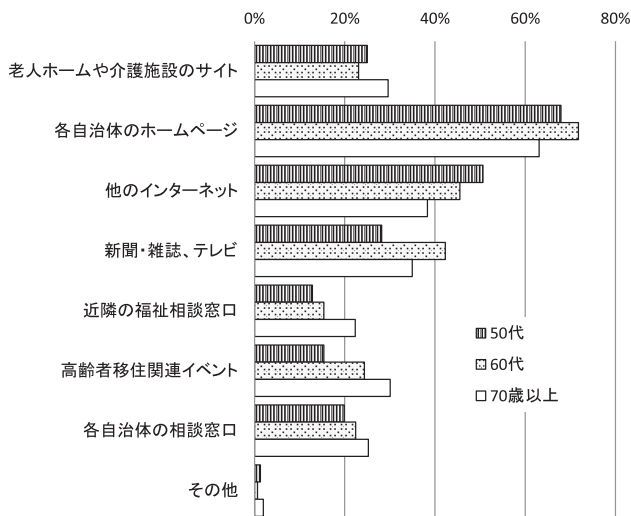
		日本版CCRCへの移住時期					合 計
		自分や家族 が働いてい る間に n=29	自分や家族 が退職して 元気な間に n=311	自分や家族に 介護が必要に なってから n=90	その他 n=13	わからない n=75	
日 本 版 CCRCの 情報収集先	老人ホームや介護施設のサイト	4	65	39	4	24	136
	各自治体のホームページ	22	219	50	12	45	348
	他のインターネット	18	150	31	8	22	229
	新聞・雑誌、テレビ	9	118	27	8	20	182
	近隣の福祉相談窓口	4	46	25	0	15	90
	高齢者移住関連イベント	6	71	22	7	18	124
	各自治体の相談窓口	8	66	20	4	20	118
	その他	0	5	1	0	1	7



年代別に見ても大きな差は見られない【図表2.19】。

図表2.19 第2回調査 日本版CCRCの情報収集先（年代別）

		年 代			合 計
		50代 n=156	60代 n=156	70歳以上 n=206	
日 本 版 CCRCの 情報収集先	老人ホームや介護施設の サイト	39	36	61	136
	各自治体のホームページ	106	112	130	348
	他のインターネット	79	71	79	229
	新聞・雑誌、テレビ	44	66	72	182
	近隣の福祉相談窓口	20	24	46	90
	高齢者移住関連イベント	24	38	62	124
	各自治体の相談窓口	31	35	52	118
	その他	2	1	4	7

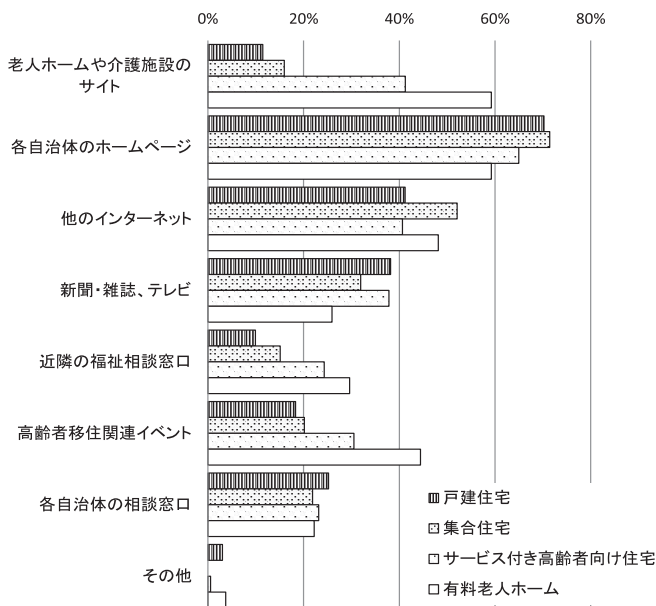


男女別で差は見られない。結婚歴や子どもの有無によって差は見られない。  
世代年収、個別年収による差は見られない。

日本版CCRCで最初に選択する住まい別に見ると、いずれも各自治体のホームページが多く、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホームの人で老人ホームや介護施設のサイトが多くなっていた【図表2.20】。

図表2.20 第2回調査 日本版CCRCの情報収集先（日本版CCRCで最初に選択する住まい別）

		日本版CCRCで最初に選択する住まい						合計
		戸建住宅 n=131	集合住宅 n=119	サービス付 き高齢者向 け住宅 n=177	有料老人 ホー ム n=27	その他 n=6	わから な い n=58	
日 本 版 CCRCの 情報収集先	老人ホームや 介護施設の サイト	15	19	73	16	2	11	136
	各自治体の ホームページ	92	85	115	16	5	35	348
	他の インターネット	54	62	72	13	2	26	229
	新聞・雑誌、 テレビ	50	38	67	7	2	18	182
	近隣の 福祉相談窓口	13	18	43	8	1	7	90
	高齢者移住 関連イベント	24	24	54	12	3	7	124
	各自治体の 相談窓口	33	26	41	6	4	8	118
	その他	4	0	1	1	0	1	7



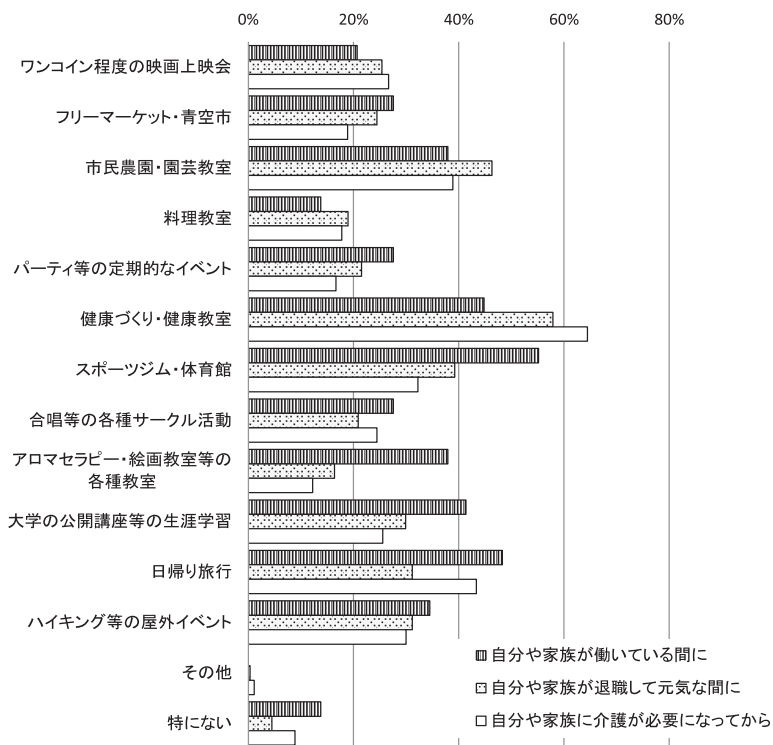
#### (5) 希望するアクティビティプログラム、相談窓口（第2回調査）

日本版CCRCに希望する有料のアクティビティプログラムを尋ねると、518人の複数回答で「ワンコイン程度の映画上映会」129人(24.9%)、「フリーマーケット・青空市」120人(23.2%)、「市民農園・園芸教室」222人(42.9%)、「料理教室」92人(17.8%)、「パーティ等の定期的なイベント」108人(20.8%)、「健康づくり・健康教室(簡単なエクササイズ含む)」302人(58.3%)、「スポーツジム・体育館」199人(38.4%)、「合唱等の各種サークル活動」114人(22.0%)、「アロマセラピー・絵画教室等の各種教室」91人(17.6%)、「大学の公開講座等の生涯学習」146人(28.2%)、「日帰り旅行」180人(34.7%)、「ハイキング等の屋外イベント」163人(31.5%)、「その他」4人(0.8%)、「特になし」39人(7.5%)。「健康づくり・健康教室」が6割であり、「市民農園・園芸教室」、「スポーツジム・体育館」が4割、「日帰り旅行」、「ハイキング等の屋外イベント」、「大学の公開講座等の生涯学習」が3割である。

移住時期別に見てもさほど変わらない。「自分や家族が働いている間に」移住を考えている人はスポーツジム・体育館が多く、「自分や家族が退職して元気な間に」、「自分や家族に介護が必要になってから」移住を考えている人は健康づくり・健康教室が多い程度である【図表2.21】。

図表2.21 第2回調査 日本版CCRCに希望するアクティビティプログラム(移住時期別)

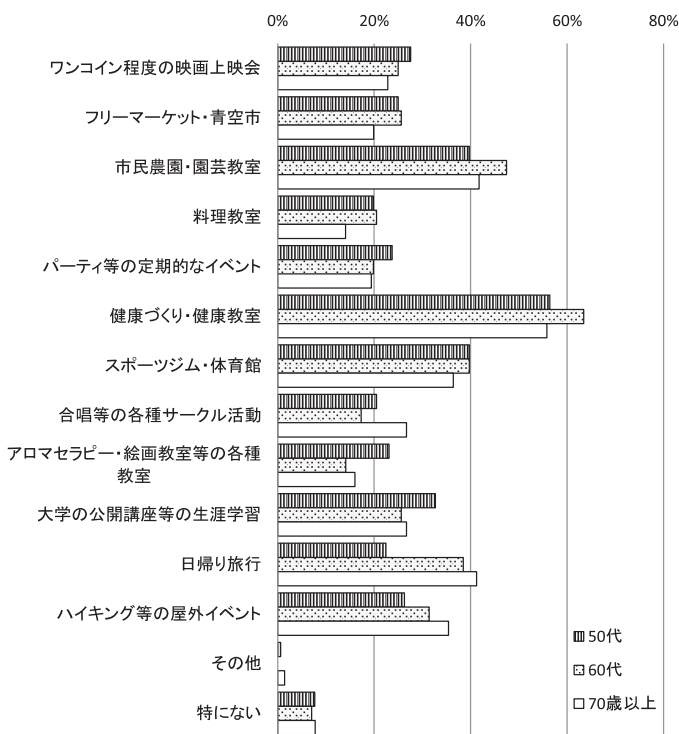
		日本版CCRCへの移住時期					合 計
		自分や家族が働いている間に n=29	自分や家族が退職して元気な間に n=311	自分や家族に介護が必要になってから n=90	その他 n=13	わからない n=75	
日 本 版 CCRCに 希望する アクティ ビティプ ログラム	ワンコイン程度の映画上映会	6	79	24	4	16	129
	フリーマーケット・青空市	8	76	17	3	16	120
	市民農園・園芸教室	11	144	35	6	26	222
	料理教室	4	59	16	4	9	92
	パーティ等の定期的なイベント	8	67	15	5	13	108
	健康づくり・健康教室	13	180	58	8	43	302
	スポーツジム・体育館	16	122	29	6	26	199
	合唱等の各種サークル活動	8	65	22	2	17	114
	アロマセラピー・絵画教室等の各種教室	11	51	11	5	13	91
	大学の公開講座等の生涯学習	12	93	23	5	13	146
	日帰り旅行	14	97	39	4	26	180
	ハイキング等の屋外イベント	10	97	27	3	26	163
	その他	0	1	1	2	0	4
	特にない	4	14	8	0	13	39



年代別に見てもいずれも健康づくり・健康教室が多く、日帰り旅行が50代で比較的少ない他はあまり変わらない【図表2.22】。

図表2.22 第2回調査 日本版CCRCに希望するアクティビティプログラム(年代別)

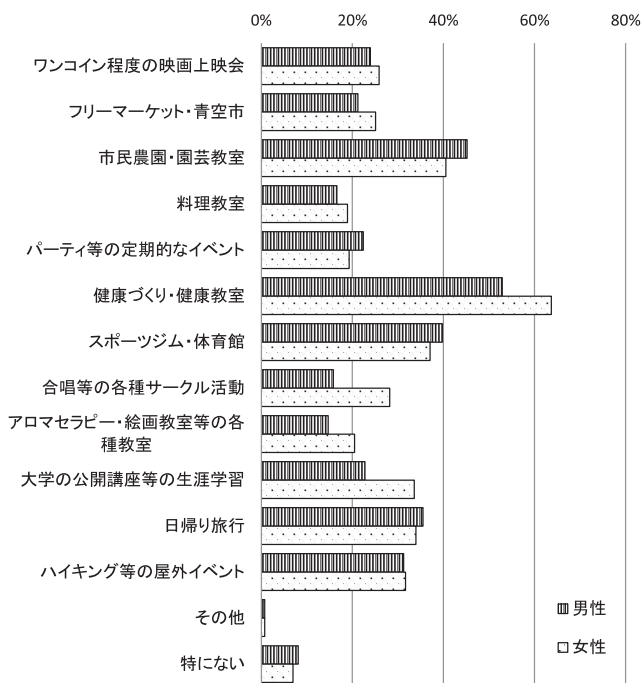
		年 代			合 計
		50代 n=156	60代 n=156	70歳以上 n=206	
日 本 版 CCRCに 希望する アクティ ビティプ ログラム	ワンコイン程度の映画 上映会	43	39	47	129
	フリーマーケット・青 空市	39	40	41	120
	市民農園・園芸教室	62	74	86	222
	料理教室	31	32	29	92
	パーティ等の定期的な イベント	37	31	40	108
	健康づくり・健康教室	88	99	115	302
	スポーツジム・体育館	62	62	75	199
	合唱等の各種サークル 活動	32	27	55	114
	アロマセラピー・絵画 教室等の各種教室	36	22	33	91
	大学の公開講座等の生 涯学習	51	40	55	146
	日帰り旅行	35	60	85	180
	ハイキング等の屋外イ ベント	41	49	73	163
	その他	1	0	3	4
	特にない	12	11	16	39



男女別に見ると、合唱等の各種サークル活動が女性に比較的人気である以外はあまり変わらない【図表2.23】。

図表2.23 第2回調査 日本版CCRCに希望するアクティビティプログラム (男女別)

		性 別		合 計
		男性 n=259	女性 n=259	
日本版CCRC に 希 望 す る ア ク テ ィ ビ テ ィ プ ロ グ ラ ム	ワンコイン程度の映画上映会	62	67	129
	フリーマーケット・青空市	55	65	120
	市民農園・園芸教室	117	105	222
	料理教室	43	49	92
	パーティ等の定期的なイベント	58	50	108
	健康づくり・健康教室	137	165	302
	スポーツジム・体育館	103	96	199
	合唱等の各種サークル活動	41	73	114
	アロマセラピー・絵画教室等の 各種教室	38	53	91
	大学の公開講座等の生涯学習	59	87	146
	日帰り旅行	92	88	180
	ハイキング等の屋外イベント	81	82	163
	その他	2	2	4
	特にない	21	18	39

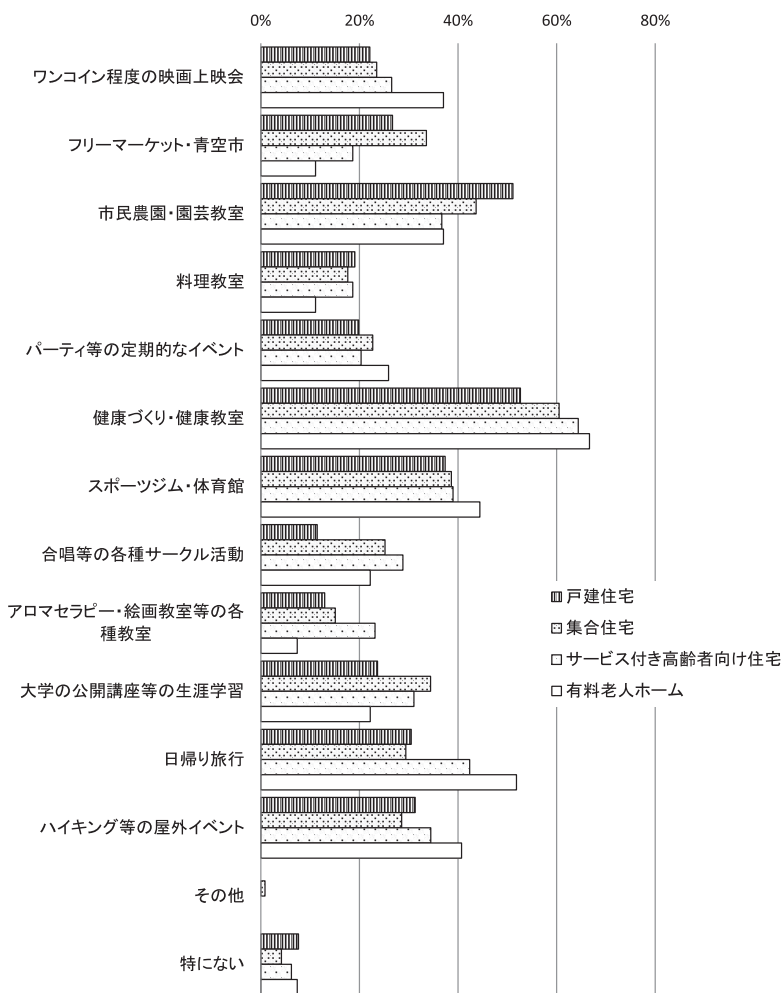


結婚歴、子どもの有無によって差は見られない。世帯年収、個人年収によって差は見られない。

日本版CCRCで最初に選択する住まい別に見るといずれも健康づくり・健康教室が多い。戸建住宅と集合住宅で市民農園・園芸教室、フリーマーケット・青空市が比較的多く、有料老人ホームで、ワンコイン程度の映画上映会、日帰り旅行、ハイキング等の屋外イベントが比較的多い【図表2.24】。

図表2.24 第2回調査 日本版CCRCに希望するアクティビティプログラム（最初に選択する住まい別）

		日本版CCRCで最初に選択する住まい						合計
		戸建住宅 n=131	集合住宅 n=119	サービス付き高齢者向け住宅 n=177	有料老人ホーム n=27	その他 n=6	わからない n=58	
日本版CCRCに希望するアクティビティプログラム	ワンコイン程度の映画上映会	29	28	47	10	2	13	129
	フリーマーケット・青空市	35	40	33	3	1	8	120
	市民農園・園芸教室	67	52	65	10	3	25	222
	料理教室	25	21	33	3	2	8	92
	パーティ等の定期的なイベント	26	27	36	7	2	10	108
	健康づくり・健康教室	69	72	114	18	3	26	302
	スポーツジム・体育館	49	46	69	12	1	22	199
	合唱等の各種サークル活動	15	30	51	6	0	12	114
	アロマセラピー・絵画教室等の各種教室	17	18	41	2	0	13	91
	大学の公開講座等の生涯学習	31	41	55	6	1	12	146
	日帰り旅行	40	35	75	14	1	15	180
	ハイキング等の屋外イベント	41	34	61	11	1	15	163
	その他	0	1	0	0	2	1	4
	特にない	10	5	11	2	0	11	39



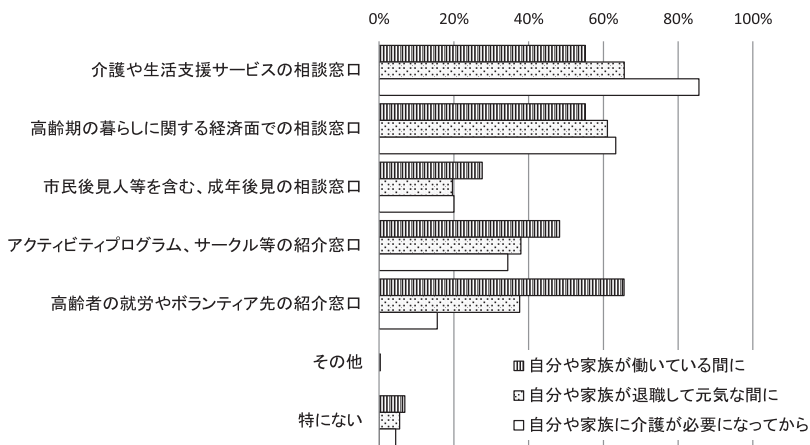
日本版CCRCで希望する無料の相談窓口は、518人の複数回答で「介護や生活支援サービスの相談窓口」356人(68.7%)、「高齢期の暮らしに関する経済面での相談窓口」313人(60.4%)、「市民後見人等を含む、成年後見の相談窓口」101人(19.5%)、「アクティビティプログラム、サークル等の紹介窓口」194人

(37.5%)、「高齢者の就労やボランティア先の紹介窓口」180人(34.7%)、「その他」1人(0.2%)、「特にない」32人(6.2%)。「介護や生活支援サービスの相談窓口」が7割、「高齢期の暮らしに関する経済面での相談窓口」が6割、「アクティビティプログラム、サークル等の紹介窓口」が4割、「高齢者の就労やボランティア先の紹介窓口」が3割である。

移住時期別に見ると、当然のことながら「自分や家族が働いている間」に移住を考えている人は高齢者の就労やボランティア先の紹介窓口が多く、「自分や家族に介護が必要になってから」移住を考えている人は介護や生活支援サービスの相談窓口が多くなっている【図表2.25】。

図表2.25 第2回調査 日本版CCRCで希望する相談窓口（移住時期別）

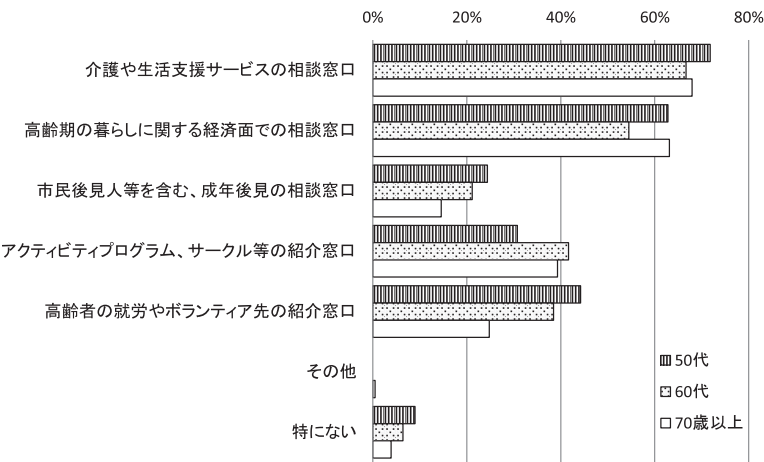
		日本版CCRCへの移住時期					合 計
		自分や家族 が働いてい る間に n=29	自分や家族 が退職して 元氣な間に n=311	自分や家族に 介護が必要に なってから n=90	その他 n=13	わからない n=75	
日 本 版 CCRCで 希望する 相談窓口	介護や生活支援サービスの相談窓口	16	204	77	10	49	356
	高齢期の暮らしに関する経済面での相談窓口	16	190	57	8	42	313
	市民後見人等を含む、成年後見の相談窓口	8	61	18	6	8	101
	アクティビティプログラム、サークル等の紹介窓口	14	118	31	4	27	194
	高齢者の就労やボランティア先の紹介窓口	19	117	14	7	23	180
	その他	0	1	0	0	0	1
	特にない	2	17	4	0	9	32



年代別に見ると、いずれも「介護や生活支援サービスの相談窓口」、「高齢期の暮らしに関する経済面での相談窓口」が多いが、次いで60代と70歳以上で「アクティビティプログラム、サークル等の紹介窓口」が比較的多く、50代で「高齢者の就労やボランティア先の紹介窓口」が比較的多い【図表2.26】。

図表2.26 第2回調査 日本版CCRCで希望する相談窓口（年代別）

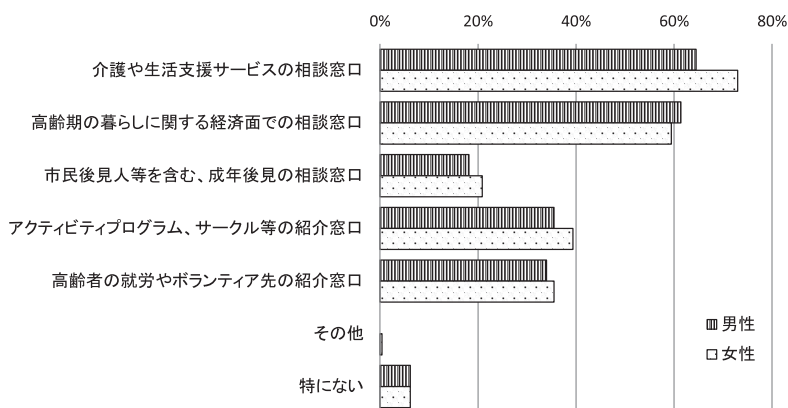
		年 代			合 計
		50代 n=156	60代 n=156	70歳以上 n=206	
日 本 版 CCRCで希 望 する 相 談 窓 口	介護や生活支援サービスの相談窓口	112	104	140	356
	高齢期の暮らしに関する経済面での相談窓口	98	85	130	313
	市民後見人等を含む、成年後見の相談窓口	38	33	30	101
	アクティビティプログラム、サークル等の紹介窓口	48	65	81	194
	高齢者の就労やボランティア先の紹介窓口	69	60	51	180
	その他	0	0	1	1
	特になし	14	10	8	32



男女別で差は見られない【図表2.27】。

図表2.27 第2回調査 日本版CCRCで希望する相談窓口（男女別）

		性 別		合 計
		男性 n=259	女性 n=259	
日本版CCRC で 希 望 す る 相 談 窓 口	介護や生活支援サービスの 相談窓口	167	189	356
	高齢期の暮らしに関する経 済面での相談窓口	159	154	313
	市民後見人等を含む、成年 後見の相談窓口	47	54	101
	アクティビティプログラム、 サークル等の紹介窓口	92	102	194
	高齢者の就労やボランティ ア先の紹介窓口	88	92	180
	その他	0	1	1
	特にない	16	16	32



結婚歴では、「高齢期の暮らしに関する経済面での相談窓口」が未婚の人で113人中78人（69.0%）、既婚の人で405人中235人（58.0%）、未婚の人で多くなっている。

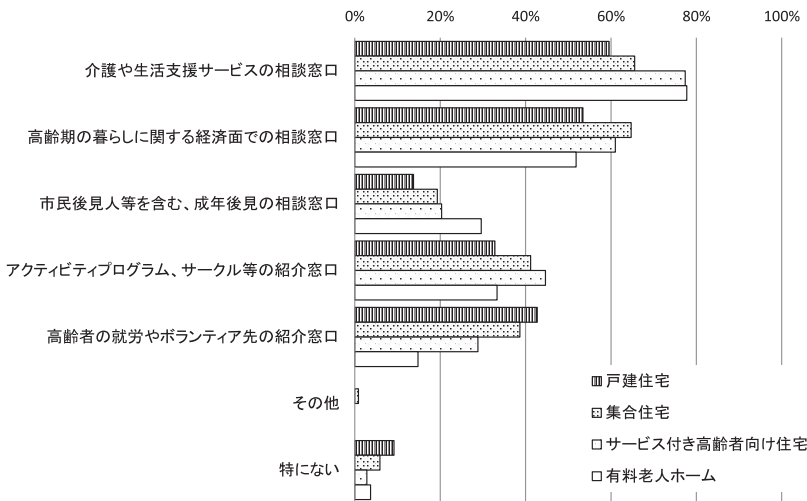
子どもの有無では、「市民後見人等を含む、成年後見の相談窓口」が子どもなしの人で107人中35人（32.7%）、子どもありの人で411人中66人（16.1%）、子どもなしの人で多くなっている。

世帯収入では、「高齢期の暮らしに関する経済面での相談窓口」が1000万円以上でやや少なくなる（65人中28人：43.1%）。個人収入では、「高齢期の暮らしに関する経済面での相談窓口」が600万円以上でやや少なくなる（73人中32人：43.8%）。

日本版CCRCで最初に選択する住まい別に見ると、いずれも「介護や生活支援サービスの相談窓口」、「高齢期の暮らしに関する経済面での相談窓口」が多く、有料老人ホームで比較的「市民後見人等を含む、成年後見の相談窓口」が多くなっている。個別住宅と集合住宅で「高齢者の就労やボランティア先の紹介窓口」が多いのは「自分や家族が働いている間に」、「自分や家族が退職して元気な間」に移住を考えている人が多いためである【図表2.28】。

図表2.28 第2回調査 日本版CCRCで希望する相談窓口（最初に選択する住まい別）

		日本版CCRCで最初に選択する住まい						合計
		戸建住宅 n=131	集合住宅 n=119	サービス付き高齢者向け住宅 n=177	有料老人ホーム n=27	その他 n=6	わからない n=58	
日本版CCRCで希望する相談窓口	介護や生活支援サービスの相談窓口	78	78	137	21	5	37	356
	高齢期の暮らしに関する経済面での相談窓口	70	77	108	14	4	40	313
	市民後見人等を含む、成年後見の相談窓口	18	23	36	8	3	13	101
	アクティビティプログラム、サークル等の紹介窓口	43	49	79	9	0	14	194
	高齢者の就労やボランティア先の紹介窓口	56	46	51	4	1	22	180
	その他	0	1	0	0	0	0	1
	特にない	12	7	5	1	0	7	32



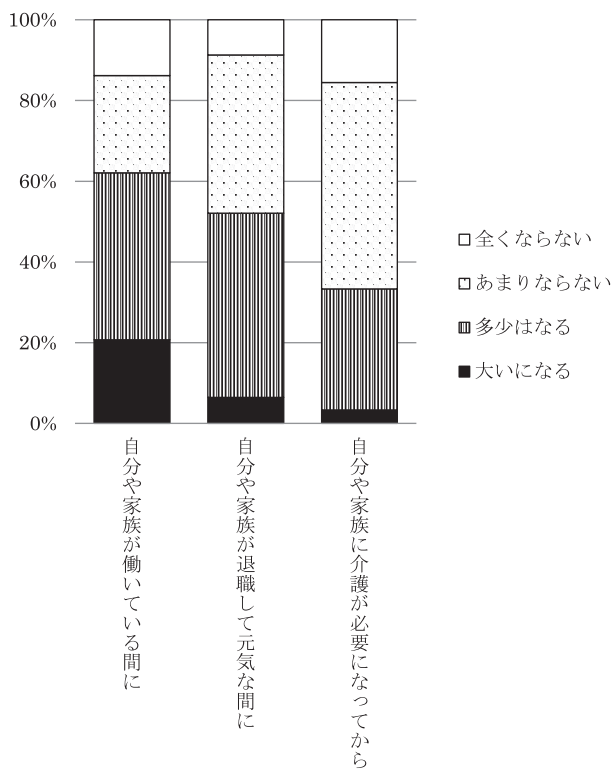
## (6) 函館の福祉コミュニティエリアへの関心等 (第2回調査)

函館の福祉コミュニティエリアを紹介した上で、日本版CCRCとして移住の候補先になるか尋ねたところ、「大いになる」32人(6.2%)、「多少はなる」215人(41.5%)、「あまりならない」204人(39.4%)、「全くなならない」67人(12.9%)。「大いになる」と「多少はなる」を合わせると半数近い。

移住時期別に見ると、自分や家族が働いている間、自分や家族が退職して元気な間に移住を考えている人の方が、自分や家族に介護が必要になってから移住を考えている人よりも、「大いになる」、「多少はなる」と答えている【図表2.29】。

図表2.29 函館の福祉コミュニティエリアへの関心 (移住時期別)

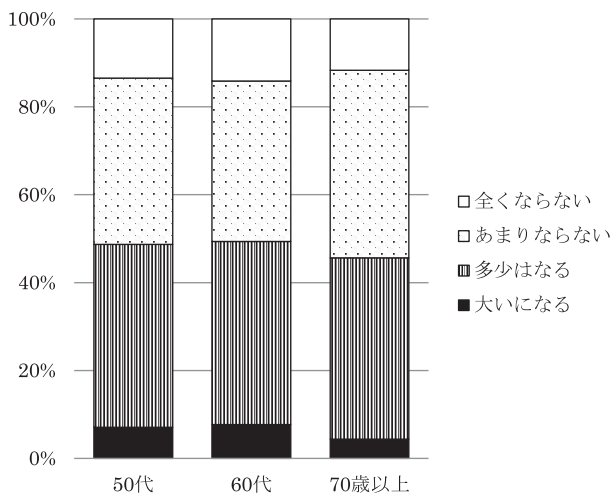
		日本版CCRCへの移住時期					合 計
		自分や家族 が働いて いる間に	自分や家族 が退職して 元気な間に	自分や家族に 介護が必要に なってから	その他	わからない	
日 本 版 CCRCと して移住 の候補先 になるか	大いになる	6	20	3	1	2	32
	多少はなる	12	142	27	3	31	215
	あまりならない	7	122	46	6	23	204
	全くなならない	4	27	14	3	19	67
合 計		29	311	90	13	75	518



年代による差は見られない【図表2.30】。男女別では男性にやや人気がある【図表2.31】。

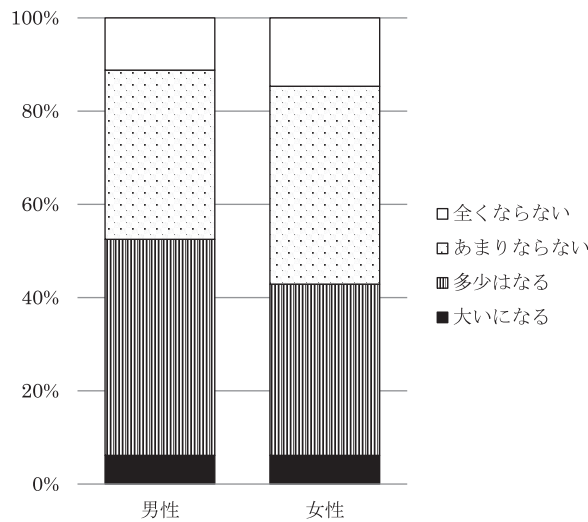
図表2.30 函館の福祉コミュニティエリアへの関心（年代別）

		年 代			合 計
		50代	60代	70歳以上	
日本版CCRCとして移住の候補先になるか	大いになる	11	12	9	32
	多少はなる	65	65	85	215
	あまりならない	59	57	88	204
	全くならない	21	22	24	67
合 計		156	156	206	518



図表2.31 函館の福祉コミュニティエリアへの関心（男女別）

		性 別		合 計
		男性	女性	
日本版CCRCとして移住の候補先になるか	大になる	16	16	32
	多少はなる	120	95	215
	あまりならない	94	110	204
	全くならない	29	38	67
合 計		259	259	518

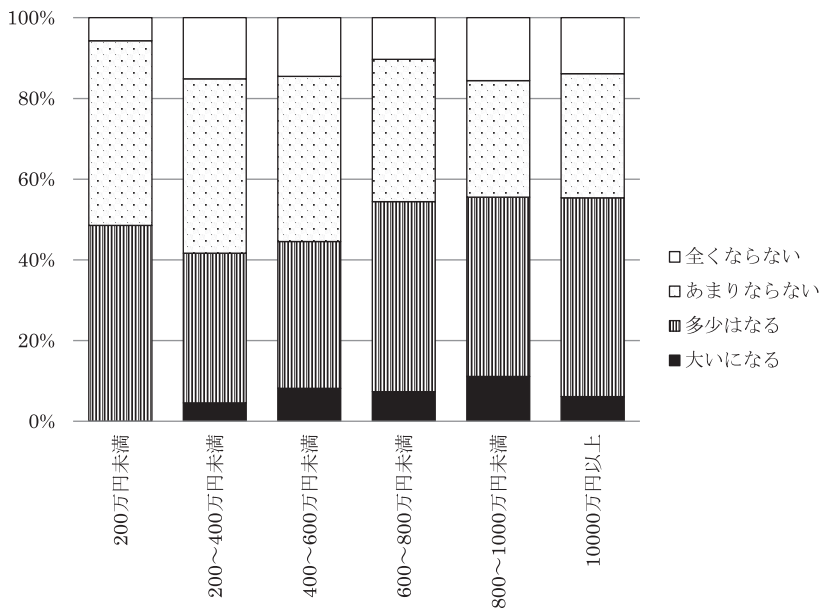


結婚歴、子どもの有無による差は見られない。

世帯年収別に見ると、600万円以上で「大いになる」と「多少はなる」を合わせて半数を超える【図表2.32】。

図表2.32 函館の福祉コミュニティエリアへの関心（世帯年収別）

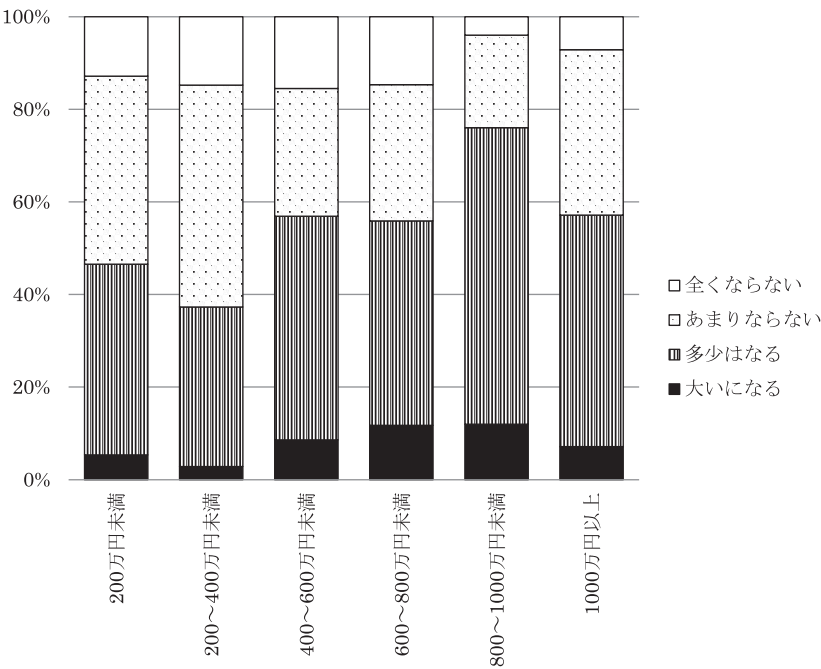
		世 帯 収 入						合計
		200万円 未 満	200～ 400万円 未 満	400～ 600万円 未 満	600～ 800万円 未 満	800～ 1000万円 未 満	10000 万円 以 上	
日 本 版 CCRCと して移住 の候補先 になるか	大いになる	0	6	9	5	5	4	29
	多少はなる	17	49	40	32	20	32	190
	あまりならない	16	57	45	24	13	20	175
	全くならない	2	20	16	7	7	9	61
合 計		35	132	110	68	45	64	455



個人年収別に見ると、400万円以上で「大いになる」と「多少はなる」を合  
わせて半数を超える【図表2.33】。

図表2.33 函館の福祉コミュニティエリアへの関心（個人年収別）

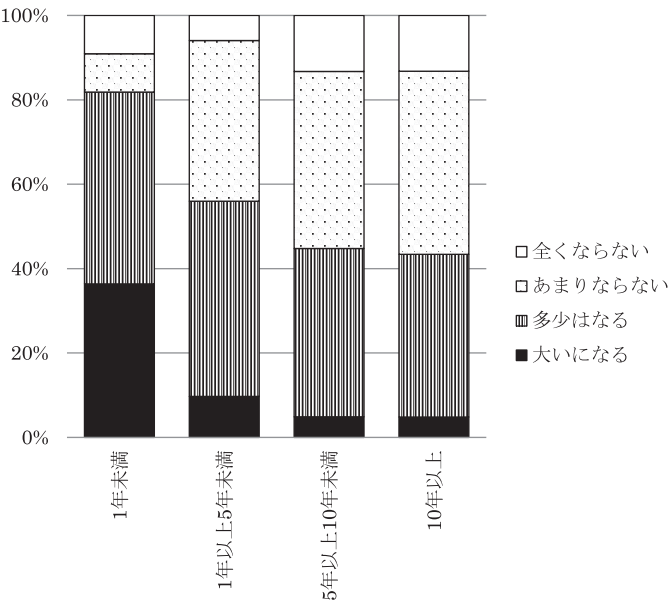
		個 人 収 入						合計
		200万円 未 満	200～ 400万円 未 満	400～ 600万円 未 満	600～ 800万円 未 満	800～ 1000万円 未 満	10000 万円 以 上	
日 本 版 CCRCと して移住 の候補先 になるか	大いになる	10	4	5	4	3	1	27
	多少はなる	77	49	28	15	16	7	192
	あまりならない	76	68	16	10	5	5	180
	全くならない	24	21	9	5	1	1	61
合 計		187	142	58	34	25	14	460



日本版CCRCへの移住予定別に見ると、5年以内の人で「大いになる」と「多少はなる」を合わせて半数を超えている【図表2.34】。

図表2.34 函館の福祉コミュニティエリアへの関心（移住予定別）

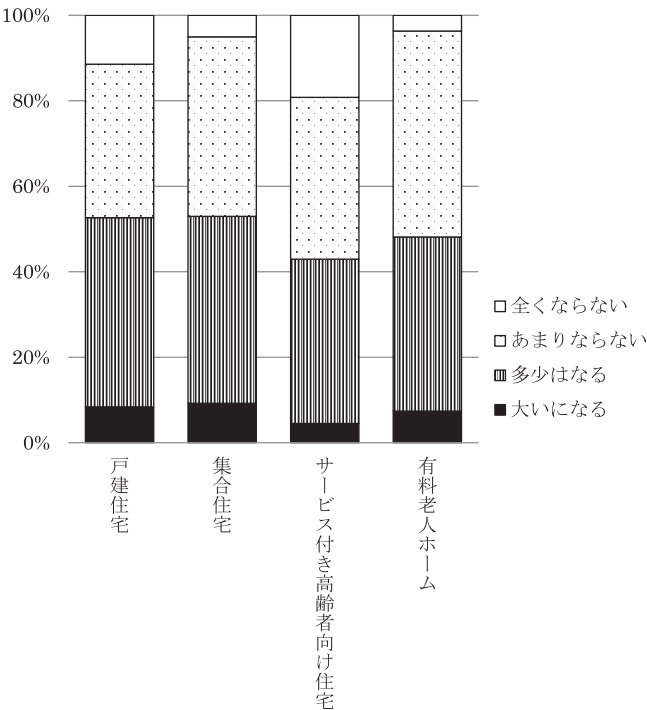
		移 住 予 定 時 期					合 計
		1年未満	1年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上	わからない	
日 本 版 CCRCと して移住 の候補先 になるか	大いになる	4	13	7	4	4	32
	多少はなる	5	62	57	32	59	215
	あまりならない	1	51	60	36	56	204
	全くならない	1	8	19	11	28	67
合 計		11	134	143	83	147	518



日本版CCRCで最初に選択する住まい別に見ると、あまり差はなくサービス付き高齢者向け住宅で若干低い【図表2.35】。

図表2.35 函館の福祉コミュニティエリアへの関心(最初に選択する住まい別)

		日本版CCRCで選択する最初の住まい						合計
		戸建住宅	集合住宅	サービス付き高齢者向け住宅	有料老人ホーム	その他	わからない	
日本版CCRCとして移住の候補先になるか	大いになる	11	11	8	2	0	0	32
	多少はなる	58	52	68	11	1	25	215
	あまりならない	47	50	67	13	3	24	204
	全くならない	15	6	34	1	2	9	67
合 計		131	119	177	27	6	58	518

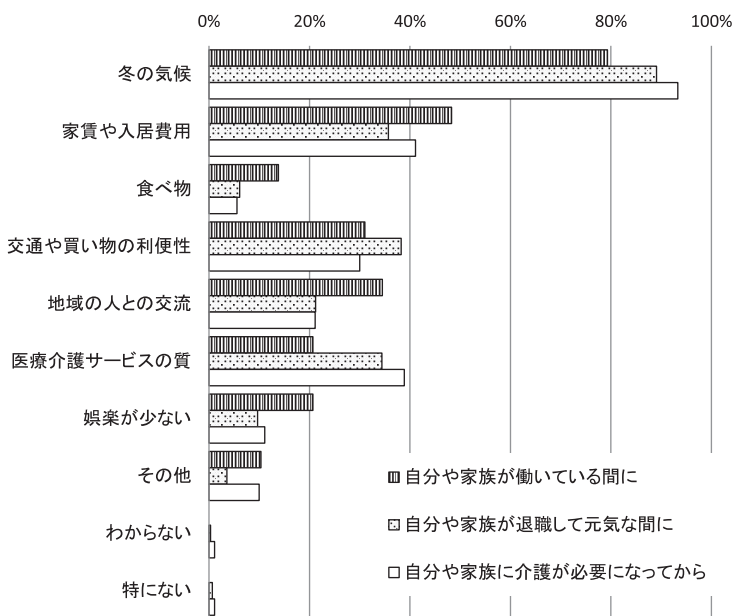


函館の福祉コミュニティエリアへの移住を考える上で不安な点は、518人の複数回答で「冬の気候」455人(87.8%)、「家賃や入居費用」197人(38.0%)、「食べ物」34人(6.6%)、「交通や買い物の利便性」183人(35.3%)、「地域の人との交流」112人(21.6%)、「医療介護サービスの質」178人(34.4%)、「娯楽が少ない」51人(9.8%)、「その他」31人(6.0%)、「わからない」5人(1.0%)、「特にない」5人(1.0%)。「冬の気候」が9割、「家賃や入居費用」、「交通や買い物の利便性」、「医療介護サービスの質」が3～4割である。「その他」には、現住所からのアクセス、家族や親族宅等からの近接性があった。

移住時期別に見ると、「自分や家族が退職して元気な間に」、「自分や家族に介護が必要になってから」移住を考えている人で冬の気候、医療介護サービスの質が多くなっていた【図表2.36】。

図表2.36 第2回調査 函館の福祉コミュニティエリアへの移住で不安な点(移住時期別)

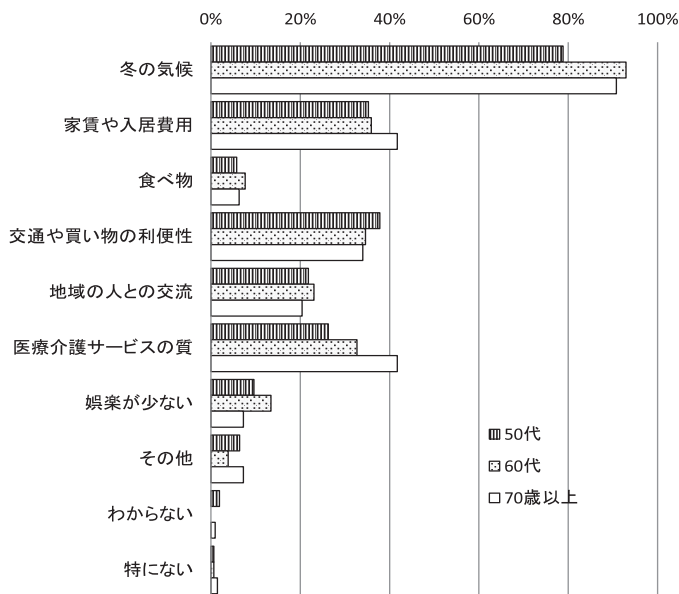
		日本版CCRCへの移住時期					合 計
		自分や家族が働いている間に n=29	自分や家族が退職して元気な間に n=311	自分や家族に介護が必要になってから n=90	その他 n=13	わからない n=75	
函館の福祉コミュニティエリアに移住する上で不安な点	冬の気候	23	277	84	11	60	455
	家賃や入居費用	14	111	37	4	31	197
	食べ物	4	19	5	0	6	34
	交通や買い物の利便性	9	119	27	4	24	183
	地域の人との交流	10	66	19	2	15	112
	医療介護サービスの質	6	107	35	5	25	178
	娯楽が少ない	6	30	10	0	5	51
	その他	3	11	9	3	5	31
	わからない	0	1	1	0	3	5
	特にない	0	2	1	0	2	5



年代別に見ると、60代、70歳以上で冬の気候、医療介護サービスの質が多くなっていた【図表2.37】。

図表2.37 第2回調査 函館の福祉コミュニティエリアへの移住で不安な点(年代別)

		年 代			合 計
		50代 n=156	60代 n=156	70歳以上 n=206	
函館の福祉 コミュニティ エリアに 移住する上 で不安な点	冬の気候	123	145	187	455
	家賃や入居費用	55	56	86	197
	食べ物	9	12	13	34
	交通や買い物の利便性	59	54	70	183
	地域の人との交流	34	36	42	112
	医療介護サービスの質	41	51	86	178
	娯楽が少ない	15	21	15	51
	その他	10	6	15	31
	わからない	3	0	2	5
	特にない	1	1	3	5



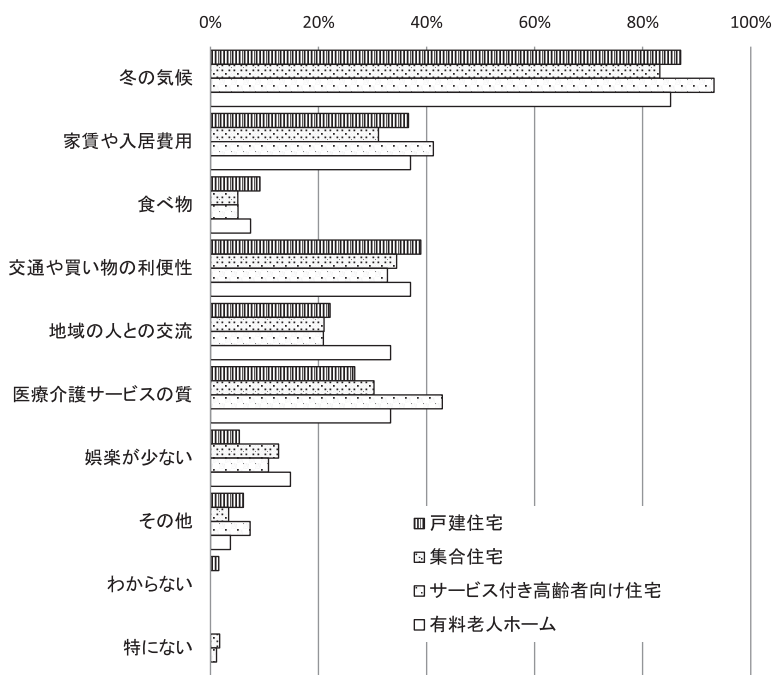
男女別に見ると、「交通や買い物の利便性」を男性259人中82人(31.7%)、女性259人中101人(39.0%)が不安な点としてあげており、女性の方が若干多かった。

結婚歴、子どもの有無による差は見られなかった。世帯年収、個別年収による差は見られなかった。

日本版CCRCで希望する最初の住まい別に見るとあまり差は見られないが、サービス付き高齢者向け住宅で医療介護サービスの質が比較的多くなっていた【図表2.38】。

図表2.38 第2回調査 函館の福祉コミュニティエリアへの移住で不安な点（最初に選択する住まい）

		日本版CCRCで最初に選択する住まい						合計
		戸建住宅	集合住宅	サービス付き高齢者向け住宅	有料老人ホーム	その他	わからない	
函館の福祉コミュニティエリアに移住する上で不安な点	冬の気候	114	99	165	23	5	49	455
	家賃や入居費用	48	37	73	10	3	26	197
	食べ物	12	6	9	2	1	4	34
	交通や買い物の利便性	51	41	58	10	3	20	183
	地域の人との交流	29	25	37	9	2	10	112
	医療介護サービスの質	35	36	76	9	4	18	178
	地娯楽が少ない	7	15	19	4	1	5	51
	その他	8	4	13	1	1	4	31
	わからない	2	0	0	0	0	3	5
	特にない	0	2	2	0	0	1	5

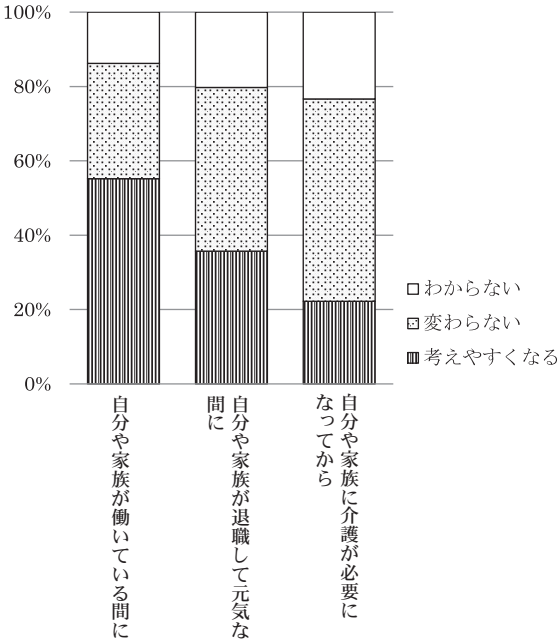


北海道新幹線の開業について「2016年3月に北海道新幹線が開業します。JR函館駅からアクセス列車で17分のところに新幹線駅ができ、東京から約4時間でむすびます」と説明した上で、新幹線開業によって函館の福祉コミュニティエリアへの移住を考えやすくなったか尋ねると、「考えやすくなる」164人(31.7%)、「変わらない」236人(45.6%)、「わからない」118人(22.8%)。3割が「考えやすくなる」と回答していた。

移住時期別に見ると、「自分や家族が働いている間に」、「自分や家族が退職して元気な間に」移住を考えている人で考えやすくなった人が多い【図表2.39】。

図表2.39 第2回調査 北海道新幹線開業によって函館の福祉コミュニティエリアへの移住を考えやすくなるか(移住時期別)

		移 住 時 期					合 計
		自分や家族が働いている間に	自分や家族が退職して元気な間に	自分や家族に介護が必要になってから	その他	わからない	
北海道新幹線開業によって移住を考えやすくなるか	考えやすくなる	16	111	20	6	11	164
	変わらない	9	137	49	6	35	236
	わからない	4	63	21	1	29	118
合 計		29	311	90	13	75	518

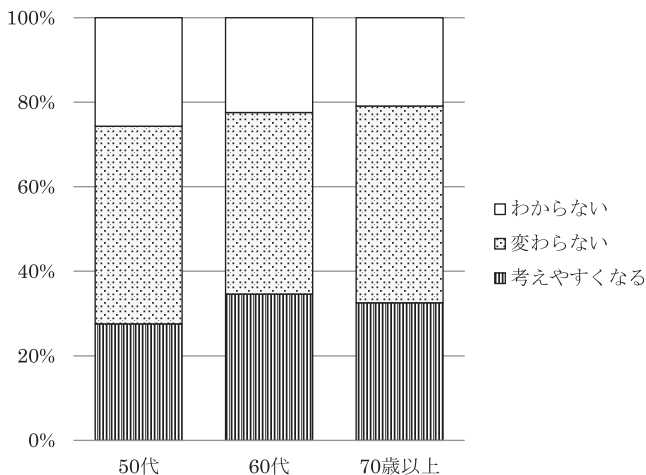


年代別に差は見られない【図表2.40】。男女別で差は見られない。結婚歴、子どもの有無によって差は見られない。

世帯年収、個人年収によって差は見られない。

図表2.40 第2回調査 北海道新幹線開業によって函館の福祉コミュニティエリアへの移住を考えやすくなるか（年代別）

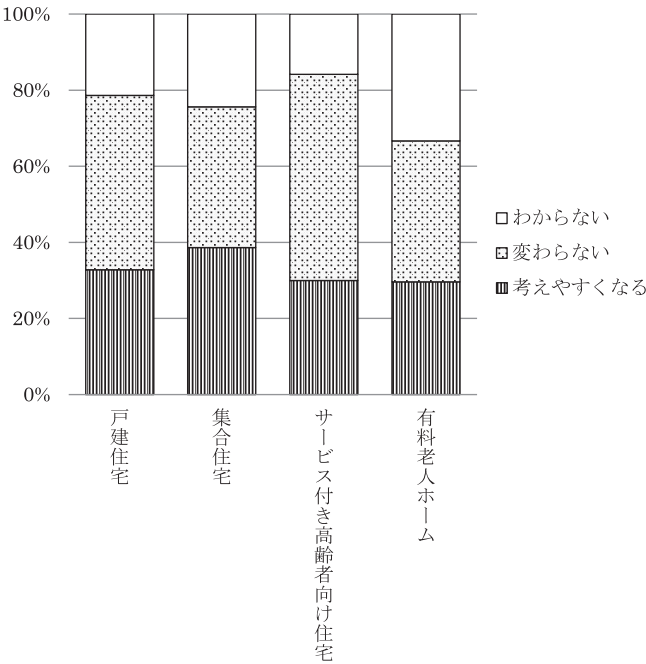
		年 代			合 計
		50代	60代	70歳以上	
北海道新幹線開業 によって移住を考 えやすくなるか	考えやすくなる	43	54	67	164
	変わらない	73	67	96	236
	わからない	40	35	43	118
合 計		156	156	206	518



日本版CCRCで希望する最初の住まい別によって差は見られない【図表2.41】。

図表2.41 第2回調査 北海道新幹線開業によって函館の福祉コミュニティエリアへの移住を考えやすくなるか（日本版CCRCで最初に選択する住まい別）

		日本版CCRCで選択する最初の住まい						合計
		戸建住宅	集合住宅	サービス付き高齢者向け住宅	有料老人ホーム	その他	わからない	
北海道新幹線開業で移住を考えやすくなるか	考えやすくなる	43	46	53	8	3	11	164
	変わらない	60	44	96	10	3	23	236
	わからない	28	29	28	9	0	24	118
合 計		131	119	177	27	6	58	518



## 5. 今後に向けて

### (1) 日本版CCRCに求められるもの

50代以上の東京圏在住者1万人に対するネットアンケート調査において、将来移住したいが5%、高齢期の移住に多少は関心があるのが3割であった。性別、年代、結婚歴、子どもの有無、年収等による差は見られず、幅広い人たちが関心を持っていると考えられる。日本版CCRCが提唱され、東京圏在住高齢者の転居が考えられている中で、相当数の人たちが地方へ移住する可能性がある。

他方で、日本版CCRCは8割が聞いたことがなくあまり知られていない。日本版CCRCを聞いたことがない人でも、説明をすると日本版CCRCへの移住に関心がある人たちがおり、PRが必要である。

日本版CCRCに関心がある人たちに移住時期を尋ねると、6割が退職後の元気な間を考えているが、介護が必要になってからも2割近かった。日本版CCRCでは原則的に健康時から移り住んでアクティブな生活を送ることが想定されているが、介護が必要になってからの利用希望が一定程度あることがわかる。

移住予定は、自分や家族が退職して元気な間に移住することを考えている人で5年以内が4割近い。逆に、介護が必要になってから移住を考えている人はわからないが多い。年代別に見ると、60代、70歳以上ともに35%程度が5年以内に移住を考えている。現在、各地で進められている日本版CCRCには様々な希望者があるが、当面の移住者は想定通りの退職後の元気な高齢者になることが考えられる。

移住先の住居は健康時に移り住む人で戸建住宅が多く、介護が必要になってから移住を考えている人でサービス付き高齢者向け住宅が多い。当面、想定通りの退職後の元気な高齢者に求められるのは戸建住宅であるが、最期まで暮らし続けることを考え合わせて、多様な住宅構成が必要である。

日本版CCRCの情報収集先は、各自治体のホームページを含むインターネ

ットが多い。自治体のホームページにつながる移住専用等のサイトによる情報提供が有効である。

希望する有料のアクティビティは、健康づくり・健康教室、市民農園・園芸教室、スポーツジム・体育館、日帰り旅行、ハイキング等の屋外イベント、大学の公開講座等の生涯教育等、多様である。特に健康教室、体育館等の健康づくりが考えられており、健康でアクティブな生活が求められている。性別、年代、移住時期（健康時または介護が必要になってから）、年収等によって差は見られず、各種のアクティビティプログラムは特に対象者を限らず、幅広い層に対応できると考えられる。

希望する無料の相談窓口は、介護や生活支援サービスの相談窓口、高齢期の暮らしに関する経済面での相談窓口が多い。高齢期の暮らしに関する経済面での相談窓口は、特に低中間所得層に求められており対応が必要である。加えて、子どもなしの人の3割が市民後見人等を含む成年後見の相談窓口を必要としており、対応が求められる。

## （2）函館の福祉コミュニティエリアについて

函館の福祉コミュニティエリアが日本版CCRCとして移住の候補先に「大いになる」または「多少はなる」人は半数近くにのぼる。特に中高所得層の5年以内の健康時に移住を考えている人に関心を持たれている。最初を選択する住まいは戸建住宅、集合住宅、サービス付き高齢者向け住宅等、様々である。

ただし、函館の福祉コミュニティエリアへの移住を考える上で不安な点として、冬の気候、家賃や入居費用、交通や買い物の利便性、医療介護サービスの質があがっている。函館に限らず、日本版CCRCを選択する基準では、家賃と入居費用、交通や買い物の利便性、周辺の医療介護サービスが多く、60歳以上で温暖な気候も多くなっていた。これらがすべてあてはまっており、選択する基準から不安があがっていると考えられる。

日本版CCRCとして選択されるために、適切な情報提供を行い、お試し居住や移住者との交流等を通じた体験的な解決を図ることが必要である。

北海道新幹線の開業によって3割が移住を考えやすくなると回答しており、特に健康時に移住を考えている人で考えやすくなっている。性別や年収等による差は見られず、今後の期待される。

## 文献

- 1) まち・ひと・しごと創生本部：まち・ひと・しごと創生基本方針検討チーム報告書、2015
- 2) 函館市：福祉コミュニティエリア整備事業開発事業 プロポーザルの概要、2015
- 3) 日本版CCRC構想有識者会議：「生涯活躍のまち」構想（中間報告）、2015
- 4) 日本版CCRC構想有識者会議：第1回資料2 日本版CCRC構想を巡る状況、2015
- 5) 函館市：福祉コミュニティエリア整備に係る基本的な考え方、2014
- 6) 函館市：福祉コミュニティエリア整備基本構想、2015